



東洋大学

哲学する心を、持て。

東洋大学はいま 2015



東洋大学は平成26年度に(公財)大学基準協会による大学評価(認証評価)を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。
この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。

東洋大学はいま 2015

学校法人東洋大学は、創立者 井上円了の掲げた「諸学の基礎は哲学にあり」を理念として、教育・研究活動を中心とした学校運営に努めております。
本書は、本法人の運営体制や財務情報、社会の要請や課題に応える諸活動について、「教育・研究」「社会・環境」「経済・財政」の3つの観点から現状をお知らせするために作成しています。

Education & Research

教育・研究

継続的な教育・研究環境を整備し、若者と社会の未来に寄与します。

Society & Environment

社会・環境

適正な法人運営を行い地域・社会との共生を推進します。

社会の要請に応え、
グローバル化の牽引と
イノベーションの創出に寄与する
人材育成・研究活動に
邁進します。

Economy & Finance

経済・財政

教育・研究を安定して遂行するための
財政的基盤を堅持します。

Contents

- 03 データで見る東洋大学
～財務ハイライト/数字で見る東洋大学～
- 05 特別対談 ～理事長・学長の視線～
- 07 社会の要請に応える大学改革
- 09 多様な領域で叡知を示した「井上円了」/沿革
- 11 教育・研究
 - 「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」
3つの基本方針のもと、教育・研究活動を展開
 - 人と社会のより良い発展のため、
教員の研究活動と学生の学びを多面的に支援
 - 次代を見据えた研究科の設置と
中等教育機関の発展
- 17 社会・環境
 - 透明性の高いガバナンスや地球環境の保全、
受験機会の平等性確保など、公正な施策を実践
 - 国際化など、時代の要請を的確にとらえ、
大学の「知」を社会の公益に役立てる
 - 教育研究機関ならではの
被災地等への人的貢献と地域社会との連携
- 23 経済・財政
 - 安定的な経営基盤のもと、
環境整備や社会への還元につとめる
- 26 基礎データ
- 27 研究データ/国際交流データ
- 29 学費データ/奨学金・表彰制度データ
- 31 就職データ
- 33 入試データ
- 35 組織図
- 37 キャンパス・施設/附属学校等の紹介
- 38 主な外部講師の紹介(2014年度)



東洋大学

建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」
「独立自活」
「知徳兼全」

東洋大学の教育理念

- 【自分の哲学を持つ】
多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学(人生観・世界観)を持つ人間を育成する。
- 【本質に迫って深く考える】
先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。
- 【主体的に社会の課題に取り組む】
社会の課題に自主的・主体的に取り組み、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

東洋大学の心

- 【他者のために自己を磨く】
自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。
- 【活動の中で奮闘する】
現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないので、東洋大学の心である。



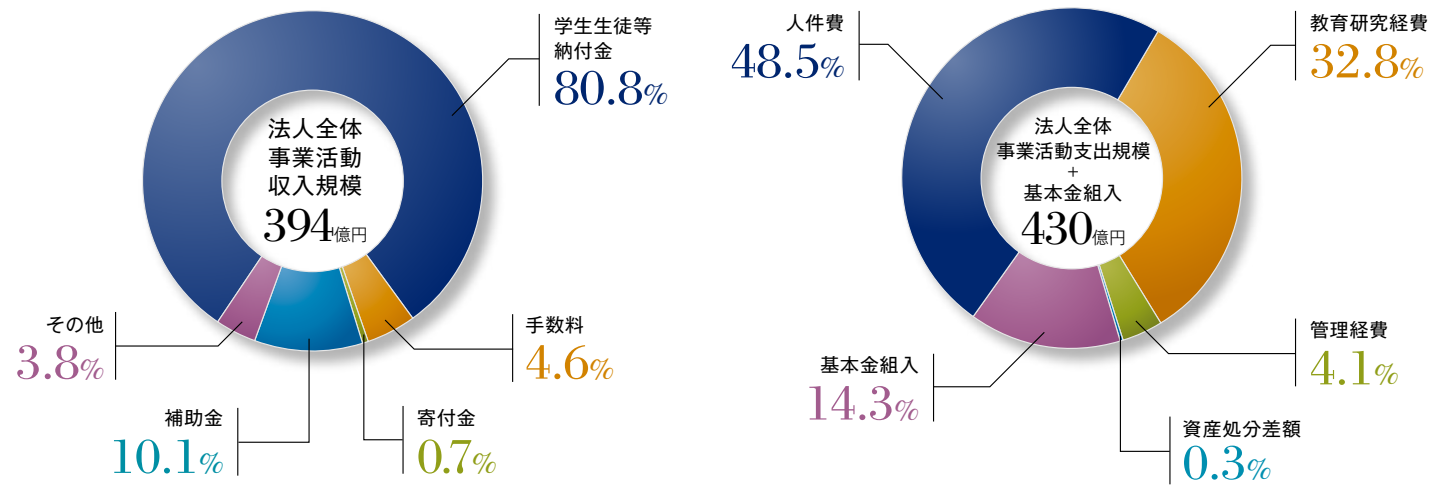
データで見る東洋大学

財務ハイライト

その他の財務データはP.23~25に掲載しています。

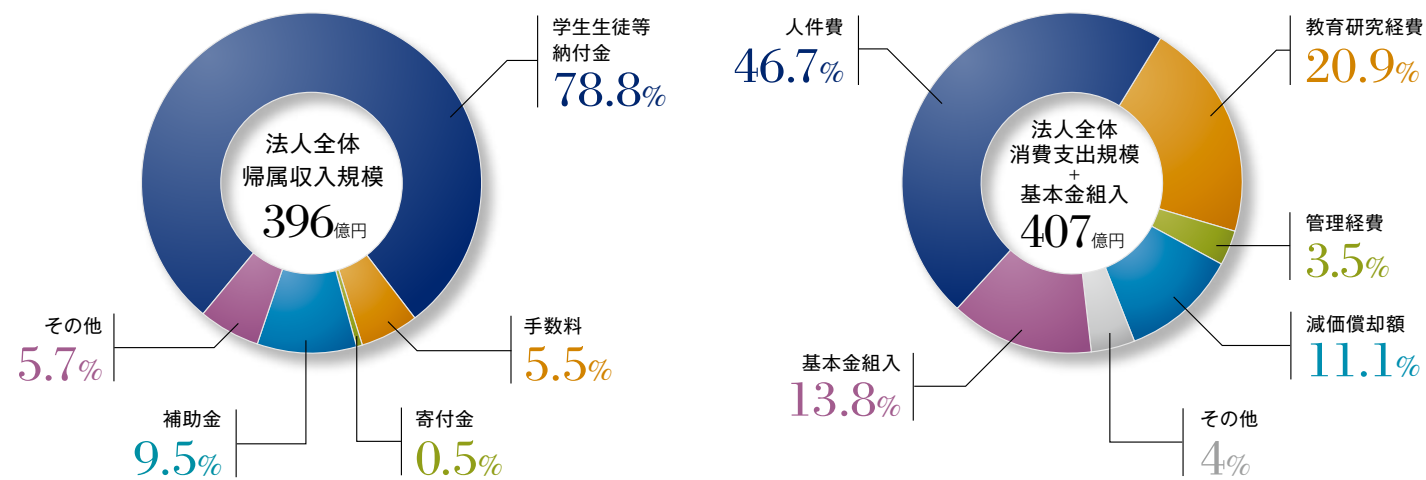
経常経費の見直しや活性化、教育研究経費比率の向上などを通し、東洋大学の継続的発展の基礎となる健全な財政に基づく予算編成を行っています。

2015(平成27)年度予算規模(事業活動収支ベース)



学生生徒等納付金については、学生数の減少に伴い2013(平成25)年度に減収傾向が見られましたが、新学部設置などにより2014(平成26)年度以降、即座に回復基調。2015(平成27)年度の既存学部の定員改正により、実学生数と定員数の乖離幅が改善されます。支出面では、総合学園計画での大幅投資が今後も想定されるため、支出の大半を占める人事計画と施設設備整備計画の適切な管理、経費削減に努めていきます。

2014(平成26)年度決算(消費収支ベース)



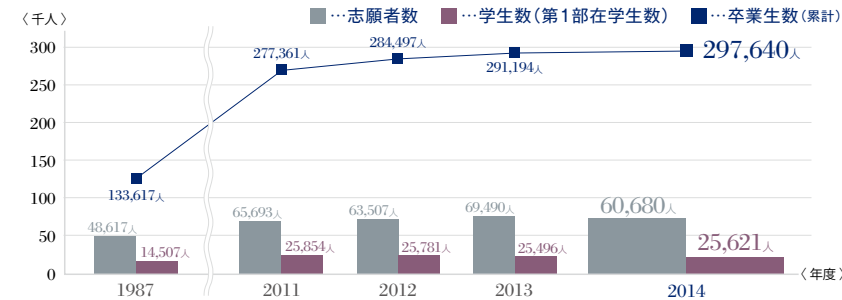
帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入の部の合計は340億7,200万円となり、消費支出が消費収入を上回った結果、10億7,600万円の消費支出超過となり、また、25億3,700万円の基本金を取り崩したことに伴い、累積の翌年度繰越消費収支差額はマイナス366億4,700万円(消費支出超過)となりました。

数字で見る東洋大学

その他の詳細なデータはP.26~34に掲載しています。

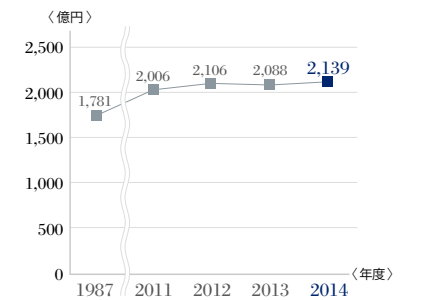
さまざまな数字やデータから、東洋大学の歴史と現在が見えてきます。

東洋大学学生数の推移



2014(平成26)年度の志願者数は60,680人で、これは国内603校の私立大学で10本の指に入ります(2015年度入試の結果はP.33・34に掲載)。在学生の男女比はおおよそ3:2ですが、文学部、社会学部、国際地域学部、ライフデザイン学部、食環境科学部では、女子が男子を大きく上回ります。また、これまでの卒業生は297,640人を数え、それぞれ社会の第一線で活躍しています。

資産の推移



資産は継続的に増加傾向にあり、自己資金構成比率は90%を超え、安定的に高い水準で推移しています。

就職率 (2015年3月卒業生)

97.6%

学内会社説明会参加社数

1,199社

2015(平成27)年3月卒業生(学部第1部)の就職率は97.6%となりました。また、同年度中の求人社数は15,599社。開催した学内会社説明会には延べ1,199社が参加しました。

講師派遣数 (2014年度実績)

99カ所へ 99名

171校へ 214名

大学の持つ「知」を社会へ還元するため、多くの講師派遣を行っています。11学部44学科、大学院10研究科、法科大学院を擁する東洋大学の持つ多彩なテーマ、幅広い専門性で、社会教育・生涯学習に貢献しています。

海外との協定数 (2015年3月1日現在)

25カ国

81協定

東洋大学は25カ国の72大学、4コンソーシアム、3機関、2都市と協定を結んでいます。

学部学科数

11学部 44学科

イブニングコース(第2部)定員

815名

新制大学に移行した1949(昭和24)年の文学部設置以来、東洋大学は総合大学として11学部44学科を擁するまでに成長し、すべての学部で4年間一貫の同キャンパス教育体制を実現。また、意欲ある学生がひとりでも多く学べるよう、学費を抑えたイブニングコース(第2部)の拡大・維持を推進し、定員は日本一を誇ります。2014(平成26)年度からは、自力進学を応援する「独立自活」支援推薦入試を導入。大学院は現在、10研究科32専攻と専門職大学院から成り立っています。

外部評価

AA

東洋大学は、2015(平成27)年1月に(株)日本格付研究所(JCR)より、7年連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)、21段階の上から3番目の格付を取得。格付の見直しは「安定的」とされました。格付事由は、「収支構造に比較的余裕がある」「堅固な財政基盤の維持が可能」「都心キャンパスでの質の高い教育の提供が、長期的に見て競争力に資する可能性が高い」などが挙げられています。



Shinji Fukukawa

理事長・学長の視線

Makio Takemura

グローバル化の牽引とイノベーションの創出

教育活動に対する評価

竹村 私たちは現在、これまでの教育活動の成果が、一般の方々に評価され始めていると感じています。その1つに、2015(平成27)年度の入試志願者数が昨年に比べて約20,000人増加し、かつ入学者の学力についても維持、上昇していることがあげられます。

福川 時代のニーズを取り入れ、社会や人のために尽くすといった未来志向の教育活動が広く社会に理解されつつあるのでしょうか。

竹村 また、TOEIC®の高得点取得者や、海外留学を希望する学生が増えているのも特徴です。そのような好循環を後押しすべく、海外留学に対する手厚い奨学金制度を設けるなど、本学はさまざまな支援、改革に取り組んでいます。なかでも、昨年のスーパーグローバル大学創成支援(SGU)の採択を受けて全学をあげて取り組んでいる「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想、そして2017(平成29)年4月に3学部を新設する構想は、本学の改革における大きな柱です。

福川 大学は創造的な改革を先導すべく、時代とともに常に変化を遂げる必要があります。「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想でグローバル化を先導する人材育成をはじめ、新設を構想する3学部ではグローバル化とイノベーションを融合した教育体系の構築が肝要です。

改革、将来の構想

竹村 「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想の柱のひとつは、教育組織の改革による優れた「人材*1」の育成・輩出と、学生全体の底上げによる分

厚い中間層の形成です。現在、大学は、国際社会に見られる根本的課題を解決できる人財の育成が大きな使命です。その意味で、産業技術だけでなく、社会構造や既成の価値観までを含めたイノベーションを起こしうる人財の養成に、本学は果敢に取り組んでまいります。

福川 グローバル・イノベーションの源泉としては、世界的な知的ネットワークの構築が重要です。先進的な知識を吸収し、本学の知恵を提供すると



いたように、海外の大学など知的機関とのネットワーク化を図ること、また、民間の企業や団体とのネットワークを構築し、人的交流を促すことも必要でしょう。このような取り組みを実践するためには、大学経営の健全化のさらなる努力が求められますが、将来における発展性が認められ、国内外の評価が高まれば、おのずと道も開けてきます。

竹村 「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想の柱としてはもうひとつ、あらゆる世代に対するグローバル教育の提供があげられます。その観点で

は、すでにUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)と協定を結び、同大学の英語教育のメソッドを取り入れ、持続可能な教育基盤を構築しようと考えています。SGUの補助金交付期間は10年間ですが、その後も企業や社会人向けの語学・異文化教育などといった取り組みを事業化し、独立採算型の事業展開を行うことで、補助金の交付期間後も大学の国際化の取り組みを継続していく構想を練り上げています。

竹村 グローバル・イノベーション学科ではすべての授業を英語で行い、1年間の留学を義務付ける予定です。また、情報連携学部の授業形態も非常に先進的です。フリップドクラスルーム(反転授業)を取り入れ、2年次からは日本語コースと英語コースに分かれた授業の展開を計画しています。いずれの新学部でも世界を舞台にトップレベルで活躍できるよう国際的なカリキュラムを組んでいく予定です。

東洋大学からイノベーションを

竹村 ただし、英語教育の重要性が叫ばれる昨今ですが、グローバルに活躍するために必要なものは、英語だけではないと考えています。異文化に柔軟に対応しつつ、それぞれの長所を吸収し、新しい文化を創出できるような能力が重要です。その根本にあるのは、自国の文化や伝統を深く理解し、それを他の文化のもとで生きてきた人々に説明できる力、「自文化理解・発信力」です。その能力の獲得の場を学生のみなさんに提供することも、本学の重要な使命のひとつととらえています。

福川 それともうひとつ、若者には「夢」が必要です。夢はイノベーションの源泉であり、現代においては、再生医療や健康寿命の延伸といったイノベーションが現実味を帯びていますが、そのスタートは人々のより良い暮らしを願う心であり、夢でした。そしてそこには産業や技術だけでなく、文化や哲学といった要素も含まれ、これまで以上に創造的なイノベーション力が求められます。21世紀の経済成長を牽引する新たなモデルが求められる今、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げる東洋大学こそが、成長パターンや世界標準のイノベーションを生み出す人材育成ができると考えています。

*2 2015(平成27)年5月現在設置構想中。学部・学科名は仮称であり、計画内容に変更になる可能性があります。

*1 「人は財産である」という意味から「人材」という言葉を使用しています。

Profile

1932(昭和7)年生まれ。1955(昭和30)年、通商産業省入省。内閣総理大臣秘書官、通商産業事務次官、(株)神戸製鋼所代表取締役副社長・副会長、(株)電通顧問・(株)電通総研代表取締役社長兼研究所長などを経て、2003(平成15)年3月より学校法人東洋大学理事となり、2012(平成24)年12月より現職。

学校法人 東洋大学 理事長

福川 伸次

特別対談

東洋大学 学長

竹村 牧男

Profile

1948(昭和23)年生まれ。東京大学文学部印度哲学・印度文学科卒業。博士(文学)。専門分野は仏教学・宗教哲学。1975(昭和50)年に文化庁専門職員となり、以降、三重大学助教授、筑波大学教授を経て、2002(平成14)年より東洋大学教授。文学部長などを歴任し、2009(平成21)年9月より現職。



社会の要請に応える大学改革

「スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)」採択

TOYO GLOBAL DIAMONDS

東洋大学は2014(平成26)年9月、文部科学省が日本の高等教育の国際競争力の向上を目的に、国際化を進める大学に重点支援を行う「スーパーグローバル大学創成支援タイプB(グローバル化牽引型)」に採択されました。国際感覚に富んだ創立者・井上円了の精神を今に受け継ぐ東洋大学は、時代を牽引する「ニューエリート」と国際社会で中核を担う人財「東洋グローバルリーダー」の育成をめざしています。

本構想における目標設定(一部抜粋)

1 国際関連

- ・外国人および海外学位取得教員 — 全教員の50%(400名)以上
- ・外国語のみで卒業可能なコース — 17コース(5,000人)以上
- ・外国語による授業科目 — 1,513科目

2 ガバナンス関連

- ・迅速な意思決定 — 学長ガバナンスのスキーム作成

3 教育の改革取り組み関連

- ・学生の実質的学び — アクティブラーニングの推進
- ・多面的入学者選抜 — バカレアAO入試 全学部導入

4 その他

- ・教育情報の公表 — 大学ポートレート参加 / IR室による情報分析・公表

5 大学独自の成果指標関連

- ・国際通用性 — 国際編入制度を活用して入学する学生:300人/年
- ・TGL育成 — TGL Gold認定 460人/年
TGL Silver認定 1,000人/年
TGL Bronze認定 2,500人/年
※TGL:Toyo Global Leader

創立以来、連綿と受け継がれる「国際化」の指針

東洋大学の創立者・井上円了は、哲学を「思想錬磨の術として必要な学問」ととらえる一方、机上で理論を学ぶだけでなく、実際に「自分の目で見て確かめること」を大切にしました。自身も三度にわたり世界を回る視察旅行に出かけ、日本人が海外でわかり合えるように教育すべきだと提言しています。明治の国際人であった円了が世界旅行で見聞を広め、日本の近代化の発展に貢献してきたように、本学は現在も自らの哲学と広い視野を持って世界へ羽ばたき、社会に貢献できる力を持つ人財の育成に努めています。

2012(平成24)年には国際地域学部の取り組みが文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されました。そして2014(平成26)年、本学は文部科学省が大学の国際化を重点支援する目的で実施した「スーパーグローバル大学創成支援」の対象37大学の1校として認定されました。「タイプB(グローバル化牽引型)」として、「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」という構想を掲げ、まずは補助金交付期間の10年間、大学の国際力向上のために「大学改革」とさらなる「国際化」に努めます。

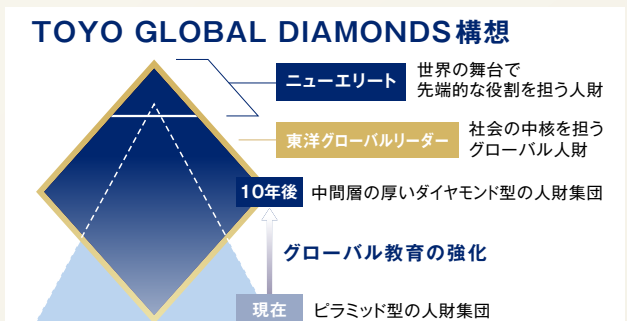
学部・学科新設など、大学改革を積極的に推進

構想にある「TOYO GLOBAL DIAMONDS」には、「ダイヤモンドの原石である学生を、輝きを放つグローバル人材に磨き上げる」「全学のグローバル化を強化し、中間層の厚いダイヤモンド型のグローバル人材の構造へと変革する」といった意味が込められています。そして、本構想でめざすのは、時代を牽引する「ニューエリート」と、国際社会で中核を担う人財「東洋グローバルリーダー(TGL)」の育成です。

具体的には、ニューエリート育成のため、グローバル教育を徹底する新しい教育組織として2017(平成29)年度に「国際学部グローバル・イノベーション学科(仮称:設置構想中)」を新設する予定です。アジアを中心とした留学生が全学生の3割程度を占める環境で、英語による少人数教育を実施。日本人学生には1年間の留学を義務付け、社会の仕組みを変革する能力と実践的コミュニケーション能力を養います。

一方で、「東洋グローバルリーダー」の育成は全学で展開。英語で開講される専門科目の履修単位数や語学力、海外留学や海外インターンシップなど、グローバルな活動を評価するTGLポイント制度を導入し、学生のモチベーション向上を図ります。

このほか、本学の学生のみならず、あらゆる世代がグローバル教育を受けられるプログラムも用意。文部科学省による補助金交付終了後も持続可能な仕組みとして継続するため、事業法人化による独立採算型の事業展開の検討を進めると同時に、「グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学」へと改革を推進していきます。



※「人は財産である」という意味から「人財」という言葉を使用しています。

2017(平成29)年、創立130周年に向けて

3学部の新設を構想

※2015(平成27)年5月現在設置構想中。学部・学科名は仮称であり、計画内容は変更になる可能性があります。

「スーパーグローバル大学創成支援」「観光立国・日本の実現」、そして「情報の総合マネジメント」を見据え、時代の要請に応える3学部の新設を構想しています。

これまで、東洋大学は他大学に先駆けた都心回帰や学部の新設を積極的に行ってきました。創立130年を迎える2017(平成29)年度にはさらに3学部を開設するなど、新たな大学改革を構想しています。

現在の国際地域学部に「国際学部*」と「国際観光学部*」に改組。国際学部に新設予定の「グローバル・イノベーション学科*」は「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想で掲げるニューエリート育成の役割を担います。そして、赤羽台(東京都北区)の新キャンパスには「情報連携学部*」を新設する予定です。

国際学部(仮称)*

グローバル・イノベーション学科(仮称)*・国際地域学科(仮称)*

国際学部には、グローバル・イノベーション学科と国際地域学科*の2学科を設置予定。ニューエリート育成を目的としたグローバル・イノベーション学科では、すべての授業を英語で実施し、日本人学生に対して海外への長期留学(1年間)を義務付けます。さらに、クォーター制(4学期制)を導入することで、日本人学生の留学と外国人留学生の受け入れを容易にします。国際地域学科は、現場主義に基づく地域づくりを国内外で展開し、アジアを中心とした開発支援やビジネスを通して地域の発展に貢献できる人材の育成をめざします。



国際観光学部(仮称)*

国際観光学科(仮称)*

2020(平成32)年の東京オリンピック・パラリンピックの開催は、観光立国・日本の実現への重要なステップと位置付けられています。その流れを牽引し、世界における日本のプレゼンスを高める人材を育成するのが国際観光学部です。語学研修や海外でのインターンシップ、グローバル企業での実務研修を推進し、観光政策や地域振興にかかわる行政職人材育成を想定し、公務員採用試験対策に関連した科目を設定します。

情報連携学部(仮称)*

情報連携学科(仮称)*

情報通信技術の進展に伴い、複雑かつ大量のデータと多様なサービスを扱うことが求められる昨今、情報の「連携」は現代のニーズに合致した重要な概念です。その要請に応えるべく、情報を総合的にマネジメントし、技術革新を推進する人材の育成をめざすのが情報連携学部です。現在建設中の新たな赤羽台キャンパスで、クラウドコンピューティングやビッグデータ解析などに代表される最先端のICT(情報通信技術)を駆使し、情報の連携、マネジメントの能力を養う学びを展開します。





創立者 多様な領域で叡知を示した「井上円了」



哲学者として、そして教育者として、
民衆とともに歩み続けた生涯

創立者 井上 円了

1858(安政5)年、長岡藩(現在の新潟県長岡市)慈光寺の長男として生誕。10歳で明治維新を体験し、その年、1868(明治元)年より漢学を学び、続けて洋学校で洋学などを学ぶ。その後、京都の東本願寺で給費生に選ばれ、1881(明治14)年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただ一人の1年生として入学。ギリシャを発祥の地とする哲学と出会い、「真理は哲学にある」と確信。1887(明治20)年、「私立哲学館」の名を掲げた哲学を専修する学校を創立。以来、著作と大学教育による哲学の普及に身を捧げるとともに、「東洋の日本」から「世界の日本」を志し、海外を視察。明治時代の日本で新しい教育の扉を開くことに尽力。1919(大正8)年、中国の大連で講演中に倒れ、61歳で逝去。



東洋大学は1887(明治20)年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」により、その歴史が始まりました。時代が江戸から明治へと移り、近代化が進み始めた日本において、円了は「哲学は新しい時代を生きる日本人にとって思考の根本になる」と考え、「哲学すること」の重要性を示しました。それは、いわゆる哲学者を養成することではなく、哲学を学ぶことにより「ものの見方や考え方の基礎」を身につけることの重要性を説くものでした。そして、「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であり、政治や法律はもとより、科学や芸術にも、その根底に哲学がなくてはならない」と述べています。この「諸学の基礎は哲学にあり」という理念は、円了からの「今」につながる大切なメッセージでもあるのです。

紙には「別に良い手段も思い浮かびません」と書いています。この苦境で立てられた計画が、全国を巡回講演することにより民衆の支援を仰ぐことでした。1890(明治23)年11月2日、円了は全国巡講の旅に出発。27年間にわたり各地で講演活動を行った円了は、中央と地方の間で今以上に大きな格差のあった明治時代において、社会教育・生涯学習のパイオニアだったといえます。特に、15冊の『南船北馬集』に記録が残されている1906(明治39)年から1918(大正7)年までの13年間だけで5,291回の講演を展開。現在の市町村の約60%にその足跡が刻まれ、今後これだけの規模のことを行う人は出てこないものと考えられます。

また、「余資なく、優暇なき者のために」と考えた円了は、哲学館の授業料を低く抑えることでひとりでも多くの人に門戸を開こうとしたほか、講義をまとめた『哲学館講義録』を館外員に送るといふ、現在でいう「通信教育」も先駆けて取り入れました。その想いは、現在の本学の「イブニングコース(第2部)」や「通信教育課程」へと受け継がれています。

広範な視野で国際化を先取り

さらに、円了は学問や研究、教育に取り組むにあたり、理論の体得だけにとどまらず、自分自身の目で確かめることを大切に、生涯において3回、単独での世界視察を行いました。旅の記録は、『欧米各国政教日記』『西航日録』『南半球五万哩』の著書に残されています。そして、得られた見聞は、全国巡講により民衆へ伝えられるとともに自らの事業にも生かされ、21世紀の本学において「国際化」という基本方針に継承されています。

沿革

1887

1887年(明治20) 井上円了が私立哲学館を創立
本郷区龍岡町(東京都文京区湯島)の麟祥院で授業開始

1897年(明治30) 原町(文京区白山)に移転
(現在の白山キャンパス)

1899年 「私立京北尋常中学校[®]」を開設
(明治32) ※現 東洋大学京北中学高等学校

1900

1906年 「私立東洋大学」と改称
(明治39)

1920年 「私立」の冠称が廃止され、「東洋大学」へ改称
(大正9)

1949年 新制大学に移行、文学部を設置
(昭和24)

1950

1950年 経済学部を設置
(昭和25) 短期大学部を設置

1952年 大学院を設置
(昭和27)

1956年 法学部を設置
(昭和31)

1959年 社会学部を設置
(昭和34)

1961年 川越キャンパス(埼玉県)を開設し、
工学部を設置

1963年 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を
(昭和38) 開設

1964年 東洋大学附属牛久高等学校(茨城県)を開設
(昭和39) 通信教育部を設置

1966年 経営学部を設置
(昭和41)

1967年 創立80周年記念式典を挙
(昭和42) 行

1970

1977年 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設
(昭和52)

1987年 創立100周年記念式典を挙
(昭和62) 行

1997年 板倉キャンパス(群馬県)を開設し、
(平成9) 国際地域学部、生命科学部を設置

2000

2002年 短期大学を廃止
(平成14)

2004年 専門職大学院法務研究科法務専攻(法科大学院)を設置
(平成16)

2005年 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)1・2
(平成17) 年次を白山キャンパスに統合、4年間一貫教育開始
朝霞キャンパスにライフデザイン学部を設置

2006年 白山第2キャンパスを開設し、法科大学院が移転
(平成18) 大学院経済学研究科公民連携専攻設置に伴い、大手町サテライトを開設
ライフデザイン学部人間環境デザイン学科を設置

2007年 大学院学際・融合科学研究科を設置
(平成19)

2008年 井上円了生誕150周年
(平成20) 文学部第1部教育学科に人間発達専攻、初等教育専攻を設置

2009年 工学部を再編し、理工学部を設置
(平成21) 川越キャンパスに総合情報学部を設置
生命科学部に応用生物科学科、食環境科学科を設置
ライフデザイン学部生活支援学科に生活支援専攻、子ども支援専攻を設置
国際地域学部を白山第2キャンパスに移転
大学院福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻を設置

2010

2010年 国際地域学部国際地域学科を2専攻とし、地域総合専攻(イブ
(平成22) ニングコース)を設置
経営学研究科にマーケティング専攻、ビジネス・会計ファイナンス
専攻を、ビジネス・会計ファイナンス専攻に中小企業診断士登録
養成コースを設置

2011年 大学院国際地域学研究科国際観光学専攻と、大
(平成23) 学院学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス
融合専攻を設置
東洋大学総合スポーツセンター(東京都板橋区)完成
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高
等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を
併設校とする

2012年 創立125周年記念式典を挙
(平成24) 行

2013年 文学部に東洋思想文化学科を設置
(平成25) 板倉キャンパスに食環境科学部を設置
国際地域学部・法科大学院が白山キャンパスに移転
東洋大学附属姫路高等学校創立50周年記念式典を挙
行

2014年 大学院工学研究科を理工学研究科に改組
(平成26) 東洋大学附属牛久高等学校創立50周年記念式典を挙
行
東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)を開設
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)」採択

2015年 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、
(平成27) 男女共学の東洋大学附属校として文京区に移転
東洋大学附属牛久中学校(茨城県)を開設

2015

□ 東洋大学のシンボル「四聖」と名称の由来

井上円了はあらゆる哲学者の著書を研究する中で古今東西の聖賢として代表を選びました。「東洋哲学」は中国哲学とインド哲学に、「西洋哲学」は古代哲学と近代哲学に分類し、それぞれの代表者を四聖として、「孔子」「釈迦」「ソクラテス」「カント」と定めたのです。四聖は、現在も東洋大学のシンボルとして、各キャンパスにレリーフが設置されています。また、日本人が西洋の学問を学ぶのに西洋の大学に留学するように、世界から日本や東洋の文化・思想を学びに来る大学にしようという考えが、東洋大学の名称に込められています。



数々の学問的功績を後世に残す

円了は哲学だけでなく、心理学や妖怪学、そして仏教にも造詣が深いことで知られています。日本の精神世界に大きな位置を占める仏教の改革が日本人の近代化に不可欠と考え、『真理金針』『仏教活論序論』などの論文や単行本を発表。明治時代の仏教は政府の政策により衰退化の傾向にありましたが、これらはベストセラーとなり、仏教界の近代化の礎として広く読まれ、日本仏教は復活を遂げました。円了は、仏教哲学系統論『外道哲学』により文学博士の学位を授与されています。

社会に有益な教育的施策を実践

1889(明治22)年、完成間近の哲学館の新校舎が台風のために倒壊したことは、円了の人生の大きな転機になりました。円了は大きな負債を負い、勝舟舟に宛てた手



教育 研究

「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」 3つの基本方針のもと、教育・研究活動を展開

Education & Research

建学の理念である「哲学」を 学びの基礎として

哲学者や妖怪博士など、 円了の多彩な側面に基いて活動を展開

哲学の社会的普及を願った井上円了の遺言に基づき、毎年11月の第1土曜日に行われるのが「哲学堂祭」です。円了が「哲学をテーマにした精神修養」の場として創設した哲学堂公園で、円了の法要と記念講演を実施。講演テーマは四聖にまつわるもので、2015(平成27)年度は釈迦を予定しています。

また、2015(平成27)年3月には、「東洋大学井上円了研究センター」新設記念シンポジウム「井上円了の妖怪学と現代」を開催。アニメ「妖怪ウォッチ」の人気も記憶に新しいところですが、実は、円了は哲学とともに妖怪についても造詣が深く、「妖怪博士」とも呼ばれていました。1887(明治20)年の『妖怪玄談』に始まり、『妖怪学講義』全6巻、『妖怪学雑誌』編集、そして最後の著作『真怪』まで、妖怪研究の第一人者として高く評価されました。

哲学を基盤に、次世代のリーダーを育成

円了の志を受け継ぎ、2013(平成25)年度から開講している「東洋大学 井上円了哲学塾」。哲学を基盤に、現代においていかに生きるべきかを深く問いながら、各分野で活躍するリーダーを講師(昨年度の外部講師はP.38に掲載)に迎え、その経験や考えを学び、今後の日本や国際社会をより良い方向に導く次世代のリーダーを育成することが目的です。プログラムの一部は塾生のほかにも総合科目として学生が受講できます。また、公開講座として一般の方にも開放。学びの場で得られる知を広く社会に還元しています。



気軽に哲学にふれる場「哲学カフェ」

広く社会へ「哲学する心」を伝えるため、都内のカフェを会場に2013(平成25)年から開催しています。「哲学すること一なぜだろう」を気軽に話し合える空間です。

Education & Research

学長のイニシアティブのもと、 教育改革を推進

教育の質を保証し、 改革・改善のPDCAサイクルを構築



大学の活動全般について情報収集、調査分析を行い、大学の意思決定に寄与する活動「IR(Institutional Research)」。2013(平成25)年9月に「東洋大学IR室」を設置、学長のもとで、データ分析、提言のみならず、教学を中心とした政策形成を支援する機関として位置づけています。教務や学生生活、就職データなど、事務局が個別に保有しているデータをIR室で体系的・経年的に収集。特に、学生の入学から卒業までの一貫した学修アウトカムの把握を実施していきます。

2014(平成26)年7月には、「東洋大学IR室設立記念国際シンポジウム」を開催。IRに関する国内有識者や、IR先進国・アメリカのIR担当者が登壇し、350名の参加者の前で広く意見交換を行いました。今後は学内の各学部・研究科だけでなく、国内外の大学や諸機関とも連携し、東洋大学および高等教育全体の質の向上に資していきます。

また、本学では教育の質の保証と向上の観点から、教職員が協働し、学生の参画を得てFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を展開しています。東洋大学の学部生、大学院生によって組織された「学生FDチーム」は、学生視点での授業改善に関する提案をはじめ、主体的な教育改善活動に取り組んでいます。

語学力や国際理解など、 世界で通用する社会人基礎力を育成

海外インターンシップで、 学生の国際的職業観を養成

東洋大学では、「国際的なキャリア教育」の立案と実施を目的とする組織として「グローバル・キャリア教育センター(GCC)」を設置しています。GCCでは、学生の国際感覚と職業観を養い社会人基礎力を身につけるためのプログラムとして、北米やオーストラリアなどの英語圏の国々に学生を派遣する「GCC海外インターンシップ・ボランティアプログラム」を実施。カナダでホームステイしながらホテルやカフェで就業体験をするプログラム、マレーシアやニュージーランドでツーリズムマネジメントを学ぶ研修など、学生の目的や語学レベルに合わせた多彩なプログラムを展開しています。海外ボランティアについても、アメリカの現地NPOでの社会福祉活動からオーストラリアでの自然環境保護活動まで、目的に合わせた活動を選択できます。



学生の海外経験を経済的に支援する 「東洋大学海外留学促進奨学金」

国際センターでは学生の海外経験を経済的に支援する制度として、「東洋大学海外留学促進奨学金」を設置しています。TOEIC®、TOEFL®、あるいはIELTS試験で一定以上の得点を取得した学生を対象とし、語学力に合わせて4つのタイプのチャレンジを促しているのが特徴です。奨学金は40,000円から1,500,000円の範囲で給付され、返済は不要。2012(平成24)年度の採用実績は96名、2013(平成25)年度は114名、2014(平成26)年度は321名でした。また、学生全員がTOEIC®IPやTOEIC Bridge®を無料で受験できる制度を設置するとともに、奨学金受給者による成果報告会を開催して対象者の拡大を図っています。

充実したキャリア形成・就職支援

大手広告代理店と協同で就職活動サポート

就職・キャリア支援部では、自分自身を徹底的に分析し、それを他者に伝えるための話し方、書き方を養うことを目的に、広告手法(ジブンの価値を把握し、適切な形で表現する活動)を取り入れたワークショップ型の就職活動支援講座を株式会社電通と協同で実施しています。2014(平成26)年度は、第1回目の講座となる事前セミナーに参加した学生の中から21名を選抜し、本講座を全4回実施しました。

個人の適性に応じた就職支援を展開

2015(平成27)年度から、新たに1年次と3年次に「PROGテスト(「知識活用力」と「行動実践力」を測定)」を実施しています。大学生活を通じての経年変化を測定することで、学生は「伸びた部分」と、「今後、伸ばすことが必要な部分」を客観的に把握できるとともに、大学では学部・学科ごとに結果を分析し、キャリア教育の改善と学生個人の適性に応じた就職支援を行っています。

さらに、年間を通して各種の就職活動支援セミナーを実施しており、「就職支援室」では模擬面接や個別相談にも応じています。この「就職支援室」は全キャンパスに設置されているため、学生はそれぞれの就職活動地域にあわせて、すべてのキャンパスの「就職支援室」の利用が可能となっています。

また、合同会社説明会は各キャンパスでの実施のほか、全キャンパスの学生が一堂に会する「東洋大学会社説明会~10学部合同就活LIVE」も実施しており、2015(平成27)年3月には、参加企業100社に対し、過去4年間で最多となる2,453名の学生が参加しました。これらの合同会社説明会参加企業から、例年多くの学生が内定を得ています。

教員志望学生のための「教職支援室」を開設

教員をめざす学生のために2014(平成26)年春、すべてのキャンパスに「教職支援室」を設置。公立・私立学校の教員になるまでのさまざまな相談や試験対策だけでなく、採用に関する情報の提供を行うなど、教員をめざす本学学生や卒業生の就職活動をトータルにサポートします。



Education & Research



教育
研究

人と社会のより良い発展のため、 教員の研究活動と学生の学びを多面的に支援

05

Education & Research



社会に有用な研究成果により 広く社会や人の幸せに貢献

医療・健康・安全などの分野で数々の研究成果を創出

東洋大学からは、社会に有用かつ個性的な研究成果が継続的に誕生しています。そのひとつが、望月修教授(理工学部)による「魚の目で鮮度を測る方法」です。腹の張り具合、目の濁りなど、現在は職人が判断している魚の鮮度を、魚眼にレーザー光を照射し、反射の度合いにより測定する手法を確立。実用化に向けて小型化に取り組み、メーカーとの協力によるハードウェアの完成をめざしています。

伊藤政博教授(生命科学部)の研究グループは、ハーバード大学およびマウントサイナイ医科大学との共同研究により、神経科学の分野で注目される電位依存性ナトリウムチャンネルファミリーから、ナトリウムイオン以外が流れる新規のイオンチャンネルを発見。これは、神経情報伝達や電位依存性ナトリウムチャンネルに起因する、遺伝的疾患の原因の解明につながります。

ほかにも、生体医工学研究センターでは、センター長・寺田信幸教授(理工学部)が中心となり、医工学、脳科学、免疫学を軸に、ストレスを可視化して計測することで、生活習慣病を予防し、高齢者が安心して生活できる環境を構築する研究を進めています。

研究開発の成果を外部に向けて積極的に公開

そして本学では、これら研究開発の成果を学内外に発信することにも注力。2014(平成26)年10月にパシフィック横浜で開催された「Bio Japan 2014」、同年11月に文京シビックセンターで開催された「文京博覧会(ぶんぱく)2014」へ参加。また、同じく11月には白山キャンパスにて「東洋大学研究成果・シーズ展2014～大学の知の発信～」を開催しました。本学の研究内容の紹介、ポスター展示、「研究成果・シーズ集」など、大学関係資料の配布を行いました。

今後も各種のイベントや展示会を通じ、本学の学術研究の経過・成果を積極的に公開していきます。

人と自然の持続可能性のため 時代のニーズに即した研究機関を設置

水環境生態系の保全や健康寿命の延伸をめざす

東洋大学では、生命科学部生命科学科・応用生物科学科と食環境科学部食環境科学科の連携による研究「人為由来環境変化に対する生物の適応戦略と小進化」が、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014～2018年度)に採択されたことを受け、板倉キャンパスに「生命環境科学研究センター」を開設。センター長 柏田祥策教授と副センター長 梅原三貴久教授が中心となり、水質汚染など、化学物質が自然環境へ与える影響と、その影響を受けた生物が生き残るためにどのように耐性を獲得し進化していくのかを研究し、水環境生態系の保全および持続的社會構築への貢献をめざします。

また、2015(平成27)年4月には健康寿命延伸のために必要な「若年期からの健康増進プランの実現」「高齢期におけるケアプランの強化」についての研究を目的とした「ライフイノベーション研究所」を設置。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構の食品総合研究所や、独立行政法人国立がんセンター、独立行政法人国立健康・栄養研究所などと連携した共同研究や私立大学戦略的研究基盤形成支援事業への申請を予定しています。



Education & Research

スポーツ競技における人材育成、 環境整備を着実に推進

Education & Research

トップアスリートの活躍は文武両道と国際性の象徴

近年、年始の東京箱根間往復大学駅伝競走など、本学学生のスポーツ競技での躍進には目を見張るものがあります。2014(平成26)年仁川アジア競技大会でMVPを獲得した水泳の萩野公介選手、2015(平成27)年3月に追い風参考記録ながら100m走で9秒台をマークした陸上競技の桐生祥秀選手、本学現役生として初のアマチュア横綱の栄冠に輝き、出羽海部屋から御嶽海としてデビューを果たした相撲の大道久司選手など、彼らの存在は自身の鍛錬とともに、本学の環境整備やアスリート育成の施策の成果といえます。

トップアスリートたちの活躍は、文武両道の象徴としてほかの学生たちに刺激を与えると同時に、東洋大学のグローバルイメージの形成に寄与しています。

女性アスリートの健康を各学部のエキスパートがサポート

また、女性アスリート育成の一環として各学部のエキスパートが集結し、健康障害などによるコンディショニング不良を未然に防ぐ「アスリートヘルスシステム」の構築を進めています。システムで得られる個人データについては、トレーニング計画の質的向上、健康管理教育に応用し、将来的にはテーラーメイド(個人対応)サポートの実現、競技能力の向上をめざします。



学生たちの積極的・自主的な学習を学部・学科を超えて幅広く支援

産学共同研究により 「2020年の東京の姿」を提案

Education & Research

ライフデザイン学部人間環境デザイン学科では2014(平成26)年、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)との産学共同研究により、2020(平成32)年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、ICT(情報通信技術)を利用した機器・サービスの提案に取り組みました。総合的に人間環境について学ぶプロダクトデザインコースの学生たちが、東京の姿をどう導き出すかを自主的に検討。フィールドワークや関係者へのインタビュー、長時間にわたるディスカッションなどを経て、「ユニット式レンタサイクルポート」「東京ホテル倍増計画」など、2020(平成32)年の東京の「お・も・て・な・し」を考えるうえで重要なヒントとなるコンセプトを構築しました。



より良い理解をサポートする 「学習(修)支援室」

東洋大学では各キャンパスに「学習(修)支援室」を設け、必要性・重要性の高い領域について学生の補習・補充教育を実施しています。理工学部と総合情報学部のある川越キャンパスでは、年間利用者が数学・物理・英語で延べ7,000名を超え、生命科学部と食環境科学部のある板倉キャンパスでは、生物・化学、資格認定試験対策で延べ700名ほどが利用しています。

2014(平成26)年春より、白山、朝霞キャンパスにも設置し、自発的・意欲的に学習したい学生のニーズに応えています。

Education & Research





教育 研究

次代を見据えた研究科の設置と 中等教育機関の発展

10

Education & Research

2016(平成28)年4月、高度な専門的職業人の養成をする 新たな大学院研究科を設置(届出済)

総合情報学分野を切り開いていく能力と 国際的に通用する高度な情報処理能力や行動力を養う

文系と理系、それぞれの学生がともに学び、「情報の創り手、使い手」の育成を図る総合情報学部を発展させる形で、「総合情報学研究科 総合情報学専攻修士課程」を設置します。本研究科では、3つの分野「システム情報分野」「メディア情報分野」「心理生体情報分野」を設け、各分野に特化した専門科目を配置するとともに、英語による発表能力を育成します。指導教員による研究指導において、国際的に通用する研究および論文執筆を指導するほか、組織的に「英文基礎力養成講座」、「英語論文作成講座」を開講し、英語論文作成を支援します。実践的な英語力を高めた学生は、学術的価値を広く一般に認知された場で英語による論文発表ないし口頭発表を行います。



食を取り巻く諸問題をグローバルな視点で解決する 実務のスペシャリストを育成

食糧自給率の低下や食の安全など、現代社会の食を取り巻くさまざまな課題に対応できる人材を育成するため、食環境科学部を基礎として「食環境科学研究科食環境科学専攻修士課程」を設置します。カリキュラムとしては就職に強い大学院をめざし、企業人講師による高度な実務教育科目を配置することで、企業が求める高度な専門家を育成。さらに、PBL(課題解決型学習)などの教育方法により、課題解決能力や高度なプレゼンテーションスキルなど実践的能力を養います。また、社会人学生を対象として土曜日に白山キャンパスでの講義を開講し(予定)、社会人でも働きながら学ぶことができる環境を整備します。



11

Education & Research

東洋大学附属図書館では 非公開の貴重書をWebで紹介

重要文化財「狭衣」など、 貴重な資料を順次公開

東洋大学附属図書館では、重要文化財の「狭衣」をはじめとする、資料保存の観点から一般公開が困難な貴重書をWebで紹介。資料は「古写本」「絵巻物」「浮世絵・刷り物」「戯作」「ちりめん本」「洋書」の6つに分類し、各ページでは、書名や作者、刊行年などの情報のほか、精細な画像を添えて作品を紹介しています。このほか、同図書館所蔵資料のデザインを利用したブックカバーデータも無料で配布。挿絵画家のウォルター・クレインによる絵本「Beauty and the beast picture book」をはじめ、「In fairyland」「The Wizard of OZ」「雪梅芳譚犬の草紙」「妖怪絵巻」「百鬼夜行絵巻」「稻生物怪録(1)(2)」の8種類を用意。

また、各キャンパスの図書館では2014(平成26)年度にPCエリアや学習室等を整備し、開館時間を延長したことにより、全キャンパス合計で入館者数が112万人を超えました。(P.27に図書館データを掲載)



12

Education & Research

総合学園としての発展をめざし 中等教育機関をさらに拡充

東洋大学附属牛久中学校・高等学校は グローバル社会で生きる人間力を育成

2015(平成27)年度より新たに中学校を開校し、中高一貫コースがスタートした「東洋大学附属牛久中学校・高等学校」。牛久高等学校は、2014(平成26)年度から文部科学省「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」のアソシエイト校に、また2015(平成27)年には茨城県「世界に羽ばたく人材育成推進事業」における私立版グローバルハイスクール推進事業に採択されました。2014(平成26)年に迎えた創立50周年では、記念式典で生徒代表による英語での「未来宣言」を行うなど、グローバル教育のさらなる充実をめざしています。

授業ではネイティブスピーカーによる英語指導の強化を図り、TOEIC Bridge®や英語検定の継続的チャレンジを後押し。日本語禁止の「オール・イングリッシュ・ゾーン」を設置するなど、学校生活を通じ、確かな英語力と異文化理解や自己発信力、社会貢献意識など、グローバル人材に求められる力を育みます。



東洋大学京北中学高等学校では 難関国公立大学への合格を強気に支援

2015(平成27)年度より文京区白山の新校舎に移転し、男女共学校として再スタートを切った「東洋大学京北中学高等学校」。カリキュラムも一新し、一定の基準をクリアすることで東洋大学への内部進学が可能になります。

その一方で、国公立大学への進学指導の充実を掲げ、全科目履修型のカリキュラムを編成。長期休業期間の講習や小論文対策、大学別入試問題演習なども用意し、難関国公立大学への現役合格を強気にバックアップします。

また、基礎学力育成の一環として、PC教室や自宅で利用可能なweb学修システム「eステーション」を導入。少人数のゼミ形式の「哲学ゼミ」では、人間の尊厳や社会のあり方への洞察を深め、論理的思考力、ディスカッション能力、課題整理力を養います。

グローバル化への対応としては、日本語厳禁の英会話スペースや英語のみで過ごす合宿「English Camp」、本学で学ぶ交換留学生と交流を深める「Let's Chat in English!」など、英語力育成の取り組みも多彩です。



13

Education & Research

1年間の学習の成果を 保護者や入学希望者の前で発表

東洋大学附属姫路中学校の 「第1回TOYO STUDY FESTA」

2014(平成26)年に開校した「東洋大学附属姫路中学校」では、2015(平成27)年3月、第1期生が1年間の学習の成果を披露する「第1回TOYO STUDY FESTA」を開催しました。在校生の保護者や入学を希望する子どもたちの前で、地場産業や郷土史について調査した「姫路研究」や英語スピーチの優秀者発表、クラブ活動発表、弁論発表などを実施。姫路研究では、黒田官兵衛について「戦死者をなるべく出さない戦い方を選んだ」といった解説が披露され、最後は生徒全員による合唱で幕を閉じました。





社会
環境

透明性の高いガバナンスや地球環境の保全、受験機会の平等性確保など、公正な施策を実践

01 健全で適正な学校法人運営を行うため コンプライアンス・ガバナンスを推進

Society & Environment



学校法人東洋大学行動規範

学校法人東洋大学の役員および教職員は、教育機関に課せられた公共性と社会的使命を認識し、職務・役割の遂行に際して誠実で高い倫理観のもと、教育研究の目標を実現するために、次の行動を実践します。

- 【1.有為な人材の育成】 理念や目標の実現に向け教育研究を行い、高い教養と専門的能力を培い、社会から求められる人材の育成に取り組みます。そのために学習環境を整備し、教育課程の改善と授業の改善を行い、常に教育と研究の質の向上を図ります。
- 【2.高い倫理観を持った研究活動】 学術研究活動において高い倫理観を保持し、研究成果を社会に提供します。また、研究活動におけるあらゆる不正行為が起こらない環境を整備するとともに、適正な研究の実施、研究費の使用を行います。
- 【3.健全な職場環境の構築】 理念・目標を実現するために一致協力し、安全で健康的な職場環境を整備するとともに、お互いの人格・人権を尊重し、いかなる差別・ハラスメントも行いません。
- 【4.法令等の遵守】 法令や社会規範を遵守し公序良俗に反する行為を厳に慎み、本学の諸規程を誠実に守り、業務上知り得た情報は適切に管理し、保持に努め、良識に従って行動します。

- 【5.公正かつ妥当な入学者選抜】 多様な受験の機会を提供し、公正かつ妥当な入学者選抜を行うとともに、関係するあらゆる情報の管理等に細心の注意を払い入学者選抜を実施します。
- 【6.社会貢献】 常に地域社会への貢献や連携を考え、開かれた学校づくりを行い、社会貢献を教育機関の重要な役割のひとつと考え、教育研究の成果を積極的に社会に還元します。
- 【7.積極的な情報公開】 学生生徒・卒業生・保護者ばかりでなく、社会全体に対し、教育研究活動状況や財政状況等を適切に開示し、学校法人および学校に対する理解と信頼を確保します。
- 【8.環境への配慮】 現在の地球環境の悪化の状況を認識し、常に環境の保全や資源の保護に心がけた活動を推進します。
- 【9.資産等の適正な管理】 資産および外部資金を適正かつ効率的に管理し、正当な業務目的にのみ使用します。また、取引先の選定を行うに当たっては、合理的かつ公正に行い、さらに自己の立場を利用した取引は行いません。

内部統制

管理運営方針として、「学長のリーダーシップの下で、副学長、学部長、学科長、研究科長、専攻長が教学マネジメントを担い、構成員と一体となった教学のPDCAサイクルの確立を図る」を定め、教職員に周知。また、「東洋大学の内部質保証に対する方針」を定め、全学に周知しています。

公益通報制度

学校法人東洋大学における業務に関し、法令もしくは学内諸規則等に違反する行為、またはその恐れのある行為（法令違反行為）について、早期発見と是正を図るため、学内と学外に公益通報・相談窓口を設けています。

教職員の資質向上

新任教員に対しては、着任前の事前研修と前期終了時に「新任教員FD研修会」を開催。新任以外では、年数回の研修会のほか、学外の研修会等に参加するための出張旅費等の支援、国内特別研究員、海外特別研究員、協定校において研究に従事する交換研究員等の制度を設け、毎年20名程度の専任教員が1年間、研究に専念できる体制を整備しています。

個人情報の取り扱い

学校法人東洋大学は、個人情報保護の重要性を鑑み、個人の人格尊重の理念のもと、個人情報の取得、管理、利用、提供、開示等に当たり、「基本方針」「学校法人東洋大学における個人情報の保護に関する規程」および「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」等の関係法律に基づき、個人情報の保護に取り組みます。

研究倫理規程

研究者が社会に対する説明責任を果たし、科学と社会の健全な関係の構築と維持に自覚的に参画すると同時に、その行動を自ら厳正に律するため、「東洋大学研究倫理規程」を確立しています。



02 「学校法人東洋大学環境憲章」により 地球・地域環境の改善・保全に寄与

Society & Environment

環境保全のために積極的なアプローチを展開

2011(平成23)年、活動のすべての分野において、地球環境問題を含む各種の環境問題に配慮した対応を推進し、それぞれの教育・研究活動を通して地球・地域環境の改善・保全に寄与することを目的とし、「学校法人東洋大学環境憲章」を設定しました。

その施策のひとつとして、2014(平成26)年11月、埼玉県川越市の主催で実施された「学生注目! 環境アイデアコンペinつばさ館」に東洋大学の3グループが参加。環境政策に関するアイデアをプレゼンテーションし、審査の結果、最優秀賞に鈴木悠さん(大学院経済学研究科経済学専攻)の「見える化」によるごみ減量に関する提言、優秀賞2枠に油井佳愛さんと根本大志さん(総合情報学部総合情報学科)の「エコツーリズムによる川越の環境理解の促進」、矢代尚己さんと西谷智禎さん(経済学部総合政策学科)の「戸別収集とごみ有料化」が選ばれ、計3枠を本学のグループが独占しました。

また、東洋大学附属牛久高等学校の新校舎は、太陽光発電システムを用いて環境教育を行うなど、環境に配慮した設計を重視。生徒が入り出る昇降口には、太陽光発電システムの発電量などが表示されます。



03 経済や地域による格差を是正し、全受験生に対して平等性を確保

Society & Environment

通信教育部設置 50周年記念行事を開催

「余資なく、優暇なき者」のために教育の機会を開放する趣旨で創立された哲学館(東洋大学の前身)では、創立当時より通学生以外を対象とする「館外員制度」を開設し、通信教育の原型ともいえる教育を行ってきました。

その伝統が引き継がれた現在の通信教育部は1964(昭和39)年に設置され、2014(平成26)年に50周年を迎えました。7月には記念行事としてシンポジウム「通信教育の可能性を考える」を開催。これからも時代の変化とともに多様化する学び方に対応した環境整備を続けていきます。



入学検定料免除や4年間の 奨学金支給で自力進学をサポート

2014(平成26)年度入試より、受験生が経済的な理由で進学をあきらめることのないよう、自力進学を応援する「独立自活」支援推薦入試を設置。この制度は、受験生がイブニングコース(第2部)を第1志望とし、在学中に白山キャンパス内の大学事務局などで働きながら学ぶことが前提で、入学検定料の免除、奨学金265,000円(年学費の半額相当)の4年間給付といったサポートを用意しています。2015(平成27)年度入試は9名の募集人数に対して27名が応募し、昨年度に比べて158%の志願者数増加となっています。

大学進学を考えるすべての高校生に 学部学科選びの機会を提供

2015(平成27)年3月より、入試情報サイト「TOYO Web Style」において、特別授業を動画で体験できる「Web体験授業」の公開を開始。動画は、在籍する専任教員とその専門分野の紹介を兼ね、教員1名につき動画1本を基本とし、毎月10本前後、最終的に3年間で500本の動画の公開をめざします。これは在職する専任教員の70%以上をカバーする本数となり、ひとつの大学が受験生向けに公開する動画の本数としては国内最大規模。動画で特別授業を体験できる環境を整えることで、キャンパスまで足を運ぶことが困難だった全国の受験生の学部学科選びをサポートします。



社会
環境

国際化など、時代の要請を的確にとらえ、大学の「知」を社会の公益に役立てる

04 Society & Environment

大学で培われる研究成果を全国の地域社会のために役立てる

全国各地へ教員を派遣し、教育研究の成果を地域社会に還元

創立者・井上円了による全国行脚の精神を受け継ぎ、教育研究の成果をもとに、社会に対して行う生涯学習支援のひとつが「全国講師派遣事業」です。これは、講演料、交通費、宿泊費を東洋大学が負担し、本学の専任教員を講演会の講師として全国各地の教育委員会、生涯学習・社会教育・社会福祉の各種団体、小・中・高等学校の教職員やPTAで企画する講演会・研修会などに派遣する事業で、2014(平成26)年度までの16年間に1,682件を実施しています。

また、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に役立てる産学連携事業「企業研修支援プログラム」を開始。海外で活躍する企業の研修会等に講師を派遣しています。

地域貢献の一環として、東洋大学ゆかりの地で文化活動を展開

学校法人東洋大学設置校が所在する地域において、大学の持つ「知」を広く一般に公開し、生涯学習の機会を提供するため、「東洋大学文化講演会」を実施しています。

2014(平成26)年11月、東京都北区で開催した「第3回 東洋大学文化講演会 in 北区」では、本学水泳部監督・平井伯昌准教授(法学部)が登壇。ロンドンオリンピック銅メダリストで本学水泳部の萩野公介選手など、世界で活躍する競泳のトップアスリートを指導してきた経験から、「『世界で勝ち抜ける人材』を育てる」と題した講演を行いました。

また、東洋大学附属姫路中学校・高等学校「50周年記念ホール」で同時期に開催した「第5回 東洋大学文化講演会 in 姫路」では、兵庫県ゆかりの小説家・玉岡かおる氏と本学の西野理子教授(社会学部)による「家族と教育」をテーマとした講演が行われました。



05 Society & Environment

国際性やバリアフリーなど時代のニーズに迅速に対応

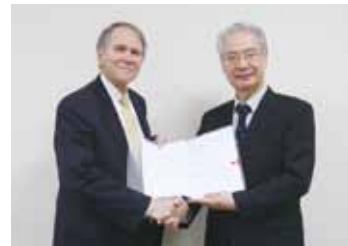
グローバル人材育成に向けてUCLA Extensionと協定を締結

東洋大学は2015(平成27)年2月、時代の要請に応える「グローバル人材」の育成を推進するため、UCLA Extensionとの間で、ビジネス英語などの共同プログラム開講に関する協定を締結しました。

この取り組みのスタートとして、まずは社会人と本学学生を対象にした「Business English Communication Program」(BECプログラム)を開講。これはビジネスシーンで活用できる英語を身につけるための講座で、少人数制(6~20名)のもと、約3カ月間集中的に行われ、UCLA Extension公認の講師から丁寧な指導を受けることが可能です。講義だけでなく、実際のミーティングや交渉場面を想定したロールプレイも用意し、ビジネスパートナーと良好な関係を築く実践的な方法の獲得までを想定。修了者には、履修クラスに応じて中級または上級クラスのCertificate(UCLA Extension発行の修了証)が授与されます。

障がい学生支援機器を積極的に導入

東洋大学ではバリアフリーの観点から、施設・設備の安全性、利便性の向上に取り組んでいます。特に、障がいのある学生の学修を支援する機器を積極的に設置し支援に努めています。目の不自由な学生には「情報読み上げソフト搭載PC」や点字教材を作成するための「立体コピー作成機」など、耳の不自由な学生には「補聴システム」、字幕のない映像教材を文字起こす「文字起こしソフト搭載PC」など、障がいに応じた機器を用意しています。



06 Society & Environment

教育活動を通じた社会貢献をめざし産官学連携プロジェクトを推進

産官学連携のチームリーダーとして子どもたちのICTへの理解促進を図る

2014(平成26)年4月に佐賀県武雄市は全小学生にタブレット端末を配付し、5月からはそれを活用する反転授業を始め、10月から「プログラミング教育」の共同実証研究を市内の小学校一校の1年生を対象に開始しています。この取り組みに、東洋大学は松原聡教授(経済学部)を中心に、武雄市、株式会社DeNAと連携して、企画・検証にあたっています。

縮小社会の都市像を提案する「ソーシャルデザイン・プロジェクト」

近年、高度成長期に一気に整備された公共インフラの老朽化への対応は、厳しい財政状況にある各自治体にとって大きな課題です。

その中で理工学部建築学科は、行政側の公開情報に基づき、市民参加のパブリックミーティングを重ねながら、オープンプロセスで公共インフラの再配置を提案する「ソーシャルデザイン・プロジェクト」を、埼玉県鶴ヶ島市、さいたま市大宮駅東口、川越市の3カ所で展開中です。学生たちは公共施設の提案を通じ、人口減少と高齢化によって縮小しつつある日本の新しい都市像を描いています。

グローバル社会での豊かな交流をめざし学術提携によりバーチャル・ミュージアムを開発

2015(平成27)年1月には、カンボジア王立プノンベン大学(RUPP)との間で、両校の交流やグローバル教育発展を目的とした学術提携を締結。本学総合情報学部とRUPP工学部の協働で、「バーチャル・ミュージアム ~カンボジア国立博物館~」の開発を推進していきます。将来的には、博物館の3Dモデリングやバーチャル3Dアニメーションなどの開発に取り組むRUPPのデータを活用し、日本で博物館を仮想見学できる仕組みを構築する予定です。



07 Society & Environment

体験型のキャリア教育「社会文化体験演習」

ソーシャルビジネスの手法など、国際問題の解決法を学修

社会学部社会文化システム学科では、2014(平成26)年より実地体験型の授業「社会文化体験演習」を本格的に導入。フェアトレードやソーシャルビジネスの手法を学ぶとともに、学生自身がプロジェクトを立ち上げて国際社会の問題を解決していく「体験型のキャリア教育」をめざしています。

そのひとつが、同年4月の国際協力団体「Smile F Laos(スマイル・エフ・ラオス)」の発足。これは、ラオスのコーヒー生産地域における実地調査を行った学生たちが現地の衛生環境の悪さを目の当たりにし、その解決を試みたプロジェクトです。同団体は、ラオスで栽培されるコーヒー豆の中でも5%しか取れないコーヒー豆「ビーベリー」100%の生豆を、輸入会社から購入して製品化。このコーヒーの販売活動を通して得られた収益の一部を使い、現地で生産される簡易浄水器を購入し、小学校に設置することで、子どもたちの衛生環境を改善する手助けを行いました。

また、2009(平成21)年9月に発足した学生ボランティアメンバーによる学修支援プロジェクト「SPIRIT(Study support Project for International children with Real Interaction at TOYO University)」では、外国にルーツを持つ子どもたちに対して、日本語を中心に学修支援を行うと同時に、学校や地域社会、家庭などで孤立しないような居場所の提供をめざしています。

ほかにも、福島県の幼稚園に無農薬バナナを届けるための「バナナ募金」の推進イベントなど、多彩な試みが進行しています。





社会
環境

教育研究機関ならではの 被災地等への人的貢献と地域社会との連携

記憶を風化させることのないよう 東日本大震災の被災地支援を積極展開

数多くの学生ボランティアを継続的に派遣

2011(平成23)年夏からは「東北応援プロジェクト(TOP)」のひとつとして、春・夏季の長期休暇を利用して東北各地に学生ボランティアを派遣。2015(平成27)年の春季休暇には、約100名の学生が岩手県大船渡市、遠野市、宮城県気仙沼市などで農家や漁港での手伝い、障がい者施設での活動、学童保育指導員の補助など、さまざまなボランティア活動に参加しました。これまでのTOPでの学生派遣人数は1,600名を超えています。

復興支援のために教員の知識と経験を惜しみなく提供

森田明美教授(社会学部)は2011(平成23)年から岩手県山田町において、仮設住宅などに暮らす中高生のために軽食付き自習施設「山田町ソナハウス」を開設し、学習支援を実施しています。また、東洋大学のセミナーハウスに福島県のひとり親家庭の子どもたちを招き、リフレッシュしてもらう試み「サマーレスバイトイズ」を展開。これらの支援活動を学生とともに継続しています。2014(平成26)年度には11月のホームカミングデーでは被災地3県の物産品を販売し、売り上げ49,522円を福島県南相馬市の児童館へ絵本購入代として寄付。子どもたちから折り紙のお礼状をいただきました。2015(平成27)年3月にはセンター長を務める東洋大学福祉社会開発研究センター主催のシンポジウム『東日本大震災からの子どもたちの復興』を開催。同センターと7つのNPO団体による被災地の子どもたちへの調査結果を報告し、今後の支援の在り方を共同討議し、提言を行いました。

また、2014(平成26)年2月、2015(平成27)年3月に福島県相馬市のそうま中央スポーツクラブで開催されたバドミントン教室では、金子元彦准教授(ライフデザイン学部)が講師として委嘱を受け、本学バドミントン部のスタッフや部員とともにプログラムを展開しました。



住民参加型の講座などを通して 各キャンパスが地域社会に貢献

周辺地域との連携による防災教育を展開

白山キャンパスでは、2008(平成20)年の「学校法人東洋大学と文京区との相互協力に関する協定」に続き、2014(平成26)年には新たに「災害時における相互協力に関する協定」を締結。この協定は、大学施設の一部を避難施設として活用し、大学の教職員や学生ボランティアがその運営に携わるなど、施設・マンパワーの両面から災害時に備える内容です。

その一環として同年11月、白山キャンパス周辺の自治会である白山前町会が実施する「首都直下型巨大地震を想定した防災訓練」を東洋大学で実施しました。地域と本学が共同で、「避難誘導訓練」「起震車や煙ハウスによる震災疑似体験」「災害時におけるクライシスコミュニケーションの情報伝達訓練」「学生ボランティア協力による災害弱者(車いす)の避難訓練」「学生ボランティア協力による白山地域のハザードマップ作成」などに取り組み、防災意識の向上と避難行動の検証を行いました。



学生と教員が地域の子育て支援に寄与

朝霞キャンパスでは、地域の未就園の親子を対象に、ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の学生と教員が中心となり企画・運営を行う子育て支援プログラム「子育て広場」を展開しています。乳幼児向けのプログラムや親同士の交流、子育て相談を行う場を提供。さらに、地域の保育所、幼稚園などの保育者や本学の卒業生を対象に「保育実践力向上講座」を行い、保育にかかわる人材の資質向上を図っています。

将来的には、朝霞市との連携をさらに深め、学内に「東洋子育て支援センター」の開設をめざすとともに、ライフデザイン学部の学際性と実践性を生かす実習施設、ラーニング・commonsを設置し、専門性の高い保育者を地域に輩出することを計画しています。

新たな啓蒙・情報発信活動「サイエンスカフェ」

板倉キャンパスでは2015(平成27)年2月、板倉町との連携協力に関する包括協定を締結。この協定は、板倉町の町制施行60周年を迎え、今後のさらなる連携強化により、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とするものです。また、2010(平成22)年度より、板倉町・館林市との間で「地域連携サイエンスカフェ協定書」を締結しています。「サイエンスカフェ」は、地域住民と自治体職員、東洋大学の教職員や学生を対象とした、サイエンスによる新たな啓蒙・情報発信活動事業。身近な話題をテーマに選択し、専門家と参加者が気軽に話題提供と意見交換を楽しめる場として、カフェ形式の講演を年6回実施しています。

2014(平成26)年には、本学卒業生でありJリーグ・ザスパクサツ群馬で活躍する野崎桂太選手を招いた「プロサッカー選手に学ぶ～夏に負けな!夏バテ予防法～」のほか、「サイエンスファームからの招待状～ピーマンの科学～」「日本一暑いまちで夏を涼しく過ごすには～館林市における6年間の調査結果から～」「健康寿命について考えてみよう～ロコモティブシンドロームをご存知ですか?～」「食生活と健康～QOLの維持・向上に必要なことは?～」「健脳のためのニューロサイエンス講座～脳のしくみから健康な脳づくりについて考える～」などをテーマに開催しました。

生物多様性の森を創出する 「川越キャンパスグラウンド緑化計画」

豊かな自然を擁する川越キャンパスでは、旧川越グラウンドを利用し、質の高い里山空間を創出する「川越キャンパスグラウンド緑化計画」を展開しています。敷地内を、常緑広葉樹林、針葉樹と広葉樹の混交林、見通しの良く明るい林内に落葉低木が散在する「教育の森」、萌芽更新を行うことで若い林を維持する「萌芽更新モデル林」、雑木林、草地管理といったゾーンに区分けし、将来的には生物多様性の森を創出。計画実行後は、モニタリング調査などの作業評価や計画全体の振り返りを実施し、PDCAサイクルの確立を図ります。

2014(平成26)年には、一般市民の協働による新たな森づくりを目的とした「こもれびの森・里山支援隊」が発足。林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受け、植林や伐採、下刈りなどの「森林施業」、近隣の自然に学ぶ「観察会」などを実施しています。

また、同年7月には、鶴ヶ島市と相互連携協力に関する基本協定を締結。川越キャンパスに近接する鶴ヶ島市との連携により、まちづくり、教育・文化等の分野において、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としています。



地域振興・社会貢献の施策を学生団体が主体的に展開

小学生の知的好奇心を刺激する「子ども大学あさか」

朝霞キャンパスでは2011(平成23)年度に、東洋大学、社団法人朝霞青年会議所、埼玉県教育局、朝霞市教育委員会等で実行委員会を組織し、「子ども大学あさか」を開校しました。本学ライフデザイン学部の教育・研究を中心に、小学生の知的好奇心を刺激する学びの機会を提供しています。2015(平成27)年には、朝霞市内の小学生70名が入学し、まちづくりやアフリカ文化、福祉などを学び、ハンドバイク体験も楽しみました。大学生が積極的に地域の子どもに関わる取り組みです。

自然体験を通じて子どもの自己形成能力を養う

白山キャンパスを拠点とする公認サークル「Good Needs(グーニーズ)」は、集団行動を通して子どもの自己形成を図ることを目的とし、東京都台東区日暮里地区の小学生を募り、レクリエーションや自然体験活動などを企画。2011(平成23)年には、文京区社会福祉協議会地域貢献事業に認定されています。

大道芸により地域住民との交流を実践

板倉キャンパスを拠点とする公認サークル「大道芸サークルPastime」は、大道芸の公演を通して近隣住民との交流を図り、地域の活性化に寄与しています。学内にとどまらず、自治体イベントへの参加や高齢者施設での公演なども積極的に実施。2014(平成26)年には、学外20カ所で開催しました。





経済
財政

安定的な経営基盤のもと、環境整備や 社会への還元につとめる

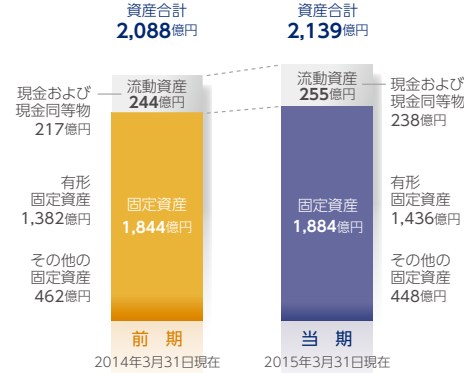
▶ 2015年度予算規模・2014年度決算はP.03に掲載しています。

2014(平成26)年度 貸借対照表レビュー

【資産の状況】

2014(平成26)年度末の有形固定資産は前年度末に比べ、さらなる大学学部進出を想定した赤羽台キャンパスの土地取得などにより増加した一方、朝霞キャンパスにおける1・3号館の土地・建物の売却などにより減少し、1,435億7,900万円となりました。その他の固定資産は、附属姫路高等学校における50周年記念ホールや図書室・職員室棟の建設に伴い減価償却引当特定資産を4億円、附属牛久高等学校における1号館(南館)の建設に伴い校舎建設準備引当特定預金を9億6,000万円、減価償却引当特定資産を8億1,500万円、建設準備引当特定資産を1億3,000万円それぞれ取り崩しましたが、大学で減価償却引当特定資産として20億円を組み入れたことなどにより、合計で447億7,800万円となりました。流動資産は、現金預金が20億5,300万円増加したことなどにより255億1,900万円となりました。

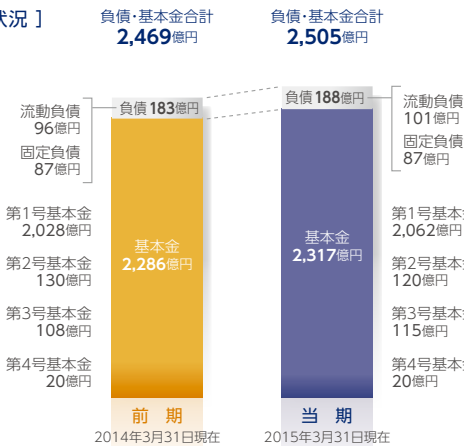
【資産の状況】



【負債の状況】

流動負債については、未払金が1億8,000万円、前受金が3億8,700万円それぞれ増加して101億5,200万円に、固定負債は退職給付引当金が3,700万円減少し、86億9,300万円となりました。

【負債・基本金の状況】



【基本金の状況】

第1号基本金は、赤羽台キャンパスの土地取得などにより33億7,700万円増加して2,061億7,700万円に、第2号基本金は附属牛久高等学校において9億6,000万円を第1号基本金に振り替えたことにより120億円となりました。第3号基本金は、基金の見直しを行ったことにより、6億5,700万円増加して114億6,700万円となりました。

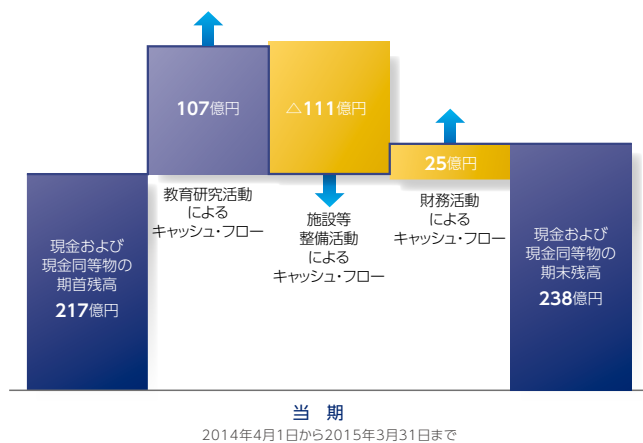
【消費収支差額の状況】

以上のことから、消費収支差額はマイナス366億4,700万円となりました。なお、減価償却累計額の合計は636億8,400万円、基本金の未組入額は3億7,800万円となり、純資産としては45億3,500万円増加して1,950億3,000万円となりました。

2014(平成26)年度 キャッシュ・フロー計算書レビュー

教育研究活動によるキャッシュ・フローは、収入において学生生徒等納付金収入や手数料収入、事業収入、前受金収入が増加した一方、寄付金収入や補助金収入、その他の収入が減少しました。また、支出において人件費支出や教育研究経費支出が増加した一方、管理経費やその他の支出が減少したことなどにより、合計で107億円のプラスとなりました。施設等整備活動によるキャッシュ・フローは、事業計画の推進などにより111億円のマイナス、また、財務活動によるキャッシュ・フローは、特定資産への組み替えなどで25億円のプラスとなりました。この結果、経常収支のキャッシュで施設等整備、財務のキャッシュを賄うことができ、現金などの期末残高についても特定資産へ積み上げたことにより、現金および現金同等物の期末残高として200億円以上を維持しています。

【キャッシュ・フロー計算書の概要】



■ 貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位:百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
固定資産	162,810	171,649	180,539	184,409	188,357
流動資産	27,900	29,000	30,119	24,393	25,519
資産の部 合計	190,710	200,649	210,658	208,802	213,876
固定負債	9,872	9,080	8,907	8,730	8,693
流動負債	9,457	9,298	11,785	9,577	10,152
負債の部 合計	19,329	18,378	20,692	18,307	18,845
基本金の部 合計	200,987	212,959	223,631	228,603	231,677
消費収支差額の部 合計	△ 29,606	△ 30,688	△ 33,665	△38,108	△36,646
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部 合計	190,710	200,649	210,658	208,802	213,876

■ 資金収支計算書

一事業年度における現金預金の収入及び支出の一覧であり、現金預金の増減の明細です。

□ 収入の部

(単位:百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
学生生徒等納付金収入	30,555	31,287	31,426	30,992	31,264
手数料収入	2,236	2,121	2,327	2,066	2,188
寄付金収入	255	1,932	850	254	139
補助金収入	3,427	3,767	3,741	4,084	3,765
資産運用収入	434	425	415	433	445
資産売却収入	0	577	2	1,800	2,800
事業収入	277	288	282	381	466
雑収入	861	879	820	762	738
前受金収入	7,334	7,252	7,560	7,784	8,170
その他の収入	6,561	7,824	5,027	13,939	27,995
資金収入調整勘定	△ 8,351	△ 8,442	△ 8,363	△8,684	△8,785
前年度繰越支払資金	28,637	26,185	27,280	28,005	21,720
収入の部 合計	72,225	74,095	71,367	81,816	90,905

□ 支出の部

(単位:百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
人件費支出	17,496	18,400	18,491	18,850	19,093
教育研究経費支出	6,687	7,129	7,752	7,656	8,503
管理経費支出	1,523	1,543	1,761	1,476	1,417
借入金等利息支出	62	28	6	3	0
借入金等返済支出	879	513	113	102	0
施設関係支出	9,492	8,333	7,824	6,596	10,197
設備関係支出	1,804	1,673	2,294	1,894	1,994
資産運用支出	6,738	8,376	6,282	19,810	25,499
その他の支出	2,889	2,314	2,468	5,322	2,032
資金支出調整勘定	△ 1,531	△ 1,494	△ 3,629	△1,613	△1,603
次年度繰越支払資金	26,185	27,280	28,005	21,720	23,773
支出の部 合計	72,225	74,095	71,367	81,816	90,905

■ 消費収支計算書

経営状況や財政状態を正しく理解でき、「教育の持続性」に対する判断に役立ちます。

□ 消費収入の部

(単位:百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
学生生徒等納付金	30,555	31,287	31,426	30,992	31,264
手数料	2,236	2,121	2,327	2,066	2,188
寄付金	295	2,891	910	293	188
補助金	3,427	3,767	3,741	4,084	3,765
資産運用収入	434	425	415	433	445
資産売却差額	0	525	3	72	623
事業収入	277	288	282	381	466
雑収入	862	880	840	769	744
帰属収入 合計	38,084	42,184	39,944	39,090	39,683
基本金組入額 合計	△17,182	△11,972	△10,672	△6,797	△5,611
消費収入の部 合計	20,902	30,212	29,272	32,293	34,072

□ 消費支出の部

(単位:百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
人件費	17,314	17,933	18,404	18,699	19,058
教育研究経費	10,408	11,205	11,813	12,118	12,940
管理経費	1,598	1,836	1,880	1,604	1,528
借入金等利息	62	28	6	3	0
資産処分差額	255	292	145	6,134	1,622
徴収不能額	—	—	—	3	0
消費支出の部 合計	29,638	31,294	32,249	38,561	35,148
当年度消費収支差額	△8,736	△1,082	△2,977	△6,268	△1,076
前年度繰越消費収支差額	△20,870	△29,606	△30,688	△33,665	△38,108
基本金取崩額	—	—	—	1,825	2,537
翌年度繰越消費収支差額	△29,606	△30,688	△33,665	△38,108	△36,647



経済
財政

■ 財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、
学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

□ 主な財務比率比較

比率名	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
帰属収支差額比率 [帰属収入-消費支出/帰属収入]	22.2	25.8	19.3	1.4	11.4
消費収支比率 [消費支出/消費収入]	141.8	103.6	110.2	119.4	103.2
学生生徒等納付金比率 [学生生徒納付金/帰属収入]	80.2	74.2	78.7	79.3	78.8
人件費比率 [人件費/帰属収入]	45.5	42.5	46.1	47.8	48.0
教育研究経費比率 [教育研究経費/帰属収入]	27.3	26.6	29.6	31.0	32.6
管理経費比率 [管理経費/帰属収入]	4.2	4.4	4.7	4.1	3.9
流動比率 [流動資産/流動負債]	295.0	311.9	255.6	254.7	251.4
負債比率 [総負債/自己資金※1]	11.3	10.1	10.9	9.6	9.7
自己資金構成比率 [自己資金/総資金※2]	89.9	90.8	90.2	91.2	91.2
基本金比率 [基本金/基本金要組入額]	99.5	99.8	99.0	99.9	99.8

※1 自己資金=基本金+消費収支差額 ※2 総資金=負債+基本金+消費収支差額

■ 寄付金状況

寄付金の種類	2014年度	
	金額	摘要
教育・研究協力資金	58,726千円	484件
奨学寄付金	30,886千円	44件
その他の特別寄付金	7,478千円	7件
附属姫路高校創立50周年記念事業資金	630千円	8件
附属牛久高校創立50周年記念事業資金	37,206千円	181件
その他の一般寄付金	4,250千円	3件
現物寄付金	49,297千円	1,251件
合計	188,473千円	1,978件

■ 補助金状況

補助金の種類	2014年度 補助金額
私立大学等経常費補助金	2,003,349
一般補助	1,531,467
特別補助	471,882
成長力強化に貢献する質の高い教育	6,896
社会人の組織的な受入れへの支援	55,191
大学等の国際交流の基盤整備への支援	48,891
大学院等の機能の高度化への支援	243,284
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	88,620
私立大学等改革総合支援事業	29,000
国際化拠点整備事業費補助金	158,560
スーパーグローバル大学創成支援	70,000
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援	88,560
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	229,156
私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金	43,106
地域産学官連携科学技術振興事業補助金	7,808
児童福祉問題調査研究事業補助金	7,802
先導的創造科学技術開発費補助金	8,000
地方公共団体等からの補助金	1,307,632
合計	3,765,413

基礎データ

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。
発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

■ 在籍学生数 (2014年5月1日現在)

□ 学部 (第1部)

学部名	男性	女性	合計
文学部	1,609	2,233	3,842
経済学部	2,089	722	2,811
経営学部	1,989	1,260	3,249
法学部	1,740	684	2,424
社会学部	999	1,587	2,586
国際地域学部	846	1,403	2,249
ライフデザイン学部	961	1,328	2,289
生命科学部	708	471	1,179
食環境科学部	172	307	479
*理工学部	2,940	390	3,330
*工学部	32	1	33
総合情報学部	819	331	1,150
合計	14,904	10,717	25,621

*2009年4月、工学部を理工学部へ再編

□ 学部 (第2部)

学部名	男性	女性	合計
文学部	374	238	612
経済学部	515	90	605
経営学部	328	122	450
法学部	407	90	497
社会学部	429	233	662
合計	2,053	773	2,826

□ 通信教育課程

学部名	男性	女性	合計
文学部	193	516	709
法学部	182	74	256
合計	375	590	965

□ 大学院

研究科名	男性	女性	合計
文学研究科	60	55	115
社会学研究科	24	15	39
法学研究科	26	10	36
経営学研究科	51	26	77
理工学研究科	59	8	67
*工学研究科	70	16	86
経済学研究科	43	11	54
国際地域研究科	24	29	53
生命科学研究科	42	15	57
福祉社会デザイン研究科	56	60	116
学際融合科学研究科	49	7	56
合計	504	252	756

*2014年4月、工学研究科を理工学研究科へ再編

□ 附属学校等

学校名	男性	女性	合計
附属姫路高等学校	928	224	1,152
附属牛久高等学校	861	796	1,657
京北高等学校	397	—	397
京北学園白山高等学校	99	—	99
高等学校合計	2,285	1,020	3,305
京北中学校	125	—	125
姫路中学校	28	21	49
中学校合計	153	21	174
京北幼稚園	44	62	106

□ キャンパス別学生数

キャンパス名	男性	女性	合計
白山キャンパス	11,603	8,855	20,458
朝霞キャンパス	985	1,349	2,334
川越キャンパス	3,969	753	4,722
板倉キャンパス	922	793	1,715
合計	17,479	11,750	29,229

□ 専門職大学院

研究科名	男性	女性	合計
法務研究科	18	8	26

■ 専任教員数 (2015年5月1日現在)

学部名	教授	准教授	講師	契約制英語講師		助教	小計	助手	合計
				英語	日本語				
文学部	61	20	5	3	7	96	0	96	
経済学部	38	22	5	2	2	69	0	69	
経営学部	31	20	8	2	2	63	0	63	
法学部	29	19	2	2	1	53	0	53	
社会学部	47	17	4	2	8	78	0	78	
国際地域学部	30	11	5	6	2	54	0	54	
白山キャンパス 合計	236	109	29	17	22	413	0	413	

学部名	教授	准教授	講師	契約制英語講師		助教	小計	助手	合計
				英語	日本語				
生命科学部	19	5	2	2	3	31	0	31	
食環境科学部	20	7	1	0	2	30	5	35	
板倉キャンパス 合計	39	12	3	2	5	61	5	66	

学部名	教授	准教授	講師	契約制英語講師		助教	小計	助手	合計
				英語	日本語				
ライフデザイン学部	33	21	3	0	8	65	3	68	

学部名	教授	准教授	講師	契約制英語講師		助教	小計	助手	合計
				英語	日本語				
理工学部	59	20	5	0	4	88	0	88	
総合情報学部	19	8	2	0	2	31	0	31	
川越キャンパス 合計	78	28	7	0	6	119	0	119	

所属	教授	准教授	講師	契約制英語講師		助教	教諭	小計	助手	合計
				英語	日本語					
大学院	7	3	0	0	0	0	0	10	0	10
専門職大学院(法務研究科)	14	0	0	0	0	0	0	14	0	14
IR室	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
国際センター	0	0	1	5	0	0	6	0	6	6
図書事務課	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1

□ 附属学校等教員数

学校名	教諭	講師(高校)	教員合計	学校名	教諭	講師(高校)	教員合計
附属姫路中学校	8	—	8	附属牛久高等学校	67	3	70
附属姫路高等学校	64	1	65	東洋大学京北中学校	17	—	17
附属牛久中学校	8	—	8	東洋大学京北高等学校	40	1	41
総合合計	217	5	222				

■ 事務職員数 (2015年5月1日現在)

□ 大学

身分	職員数
参事	14
副参事	16
主事	46
主事補	83
書記	208
事務職員	22
専任職員等 小計	389
常勤嘱託	65
特別嘱託	15
嘱託 小計	80
合計	469

□ 附属学校等

学校名	参事	副参事	主事	主事補	書記	常勤嘱託	特別嘱託	職員合計
附属姫路中学・高等学校事務室	0	1	0	0	4	7	0	12
附属牛久中学・高等学校事務室	1	0	1	2	5	5	1	15
京北事務室	0	0	1	0	4	2	1	8
合計	1	1	2	2	13	14	2	35



研究データ

科学研究費助成事業の保有件数および保有金額

(単位:千円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
保有件数	147	148	158	162
保有金額	228,299	254,860	276,350	257,390

科学研究費新規応募採択状況(専任教員4月1日通知分)

2011年度			2012年度			2013年度			2014年度		
申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率
178	43	24.2%	144	39	27.1%	161	42	26.1%	174	49	28.2%

外部資金による研究件数

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
科学研究費助成事業	142	147	148	158	162
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	11	9	10	9	10
共同研究・受託研究	54	47	51	54	43
奨学寄附金	29	34	31	41	42
合計	236	237	240	262	257

外部資金による研究費

(単位:千円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
科学研究費助成事業	203,509	228,299	254,860	276,350	257,390
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	110,296	127,985	136,210	107,365	141,813
共同研究・受託研究	130,446	112,766	116,233	115,269	94,843
奨学寄附金	27,080	28,920	19,294	40,005	31,286
合計	471,331	497,970	526,597	538,989	525,332

学位授与状況(2014年4月~2015年3月授与分)

	9月修了		3月修了		博士(論文)	合計
	修士	博士(課程)	修士	博士(課程)		
文学研究科	0	0	24	2	1	27
社会学研究科	0	0	8	0	0	8
法学研究科	0	0	10	0	0	10
経営学研究科	0	2	21	0	0	23
経済学研究科	1	0	17	2	0	20
国際地域学研究科	5	0	14	1	0	20
福祉社会デザイン研究科	1	0	17	4	0	22
工学研究科	5	1	54	2	0	62
学際・融合科学研究科	0	2	19	0	0	21
生命科学研究科	1	1	30	1	0	33
合計	13	6	214	12	1	246

発明届出数

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
発明届出数	12	13	27	19	14

特許出願件数

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
単独出願	10	7	20	14	9
共同出願	1	6	5	5	1
合計	11	13	25	19	10

	専攻	9月修了	3月修了	合計
法科大学院 法務研究科	法務専攻	2	6	8

図書館データ

図書所蔵数(2015年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	707,700	254,191	961,891
川越図書館	139,720	60,255	199,975
朝霞図書館	235,696	21,329	257,025
板倉図書館	58,939	9,710	68,649

雑誌所蔵タイトル数(2015年3月31日現在)

	和雑誌	洋雑誌	合計
白山図書館	8,428	3,384	11,812
川越図書館	1,197	1,468	2,665
朝霞図書館	2,061	477	2,538
板倉図書館	349	185	534

入館者数(2014年度開館日)

	開館日数	入館者数
白山図書館	303	887,580
川越図書館	277	140,183
朝霞図書館	272	43,774
板倉図書館	278	55,060

国際交流データ

留学生数・留学者数

派遣留学者数

プログラム名	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
交換留学(派遣)	45	55	50	56	59
認定留学	0	2	5	7	4
協定校語学留学(※1)	—	—	—	14	40
短期語学セミナー	100	126	166	140	147
合計	145	183	221	217	250

※1 2013(平成25)年度から開始したプログラム ※2 上表は、中途帰国者を含む

受入留学者数

プログラム名	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
交換留学(受入)	41	38	40	35	52

協定校等一覧(2015年3月1日現在)

- 【アイルランド】**
ダブリンシティ大学 ●★◆
リムリック大学 ●
- 【アメリカ】**
ウィノナ州立大学 ●
オレゴン州立大学 ●
カリフォルニア州立大学モントレーベイ校 ●
テネシー大学ノックスビル校 ●
パドゥー大学カルメット校 ●
ポートランド州立大学 ●★◆
ミズーリ大学セントルイス校 ●
メリヴィル大学 ●
モンタナ大学 ●★
リンゼイ・ウィルソン大学 ●
ルイスクラーク州立大学 ●
ISEP
NCPPP(米PPP協会)
ULI(日本政策投資銀行)
- 【イギリス】**
カーディフ大学 ●
ブライトン大学 ●
ヨークセントジョンズ大学 ●★
セントラル・ランカシャー大学 ●
- 【イタリア】**
ロムアルド・デル・ピアンコ財団 ●
- 【インド】**
インド工科大学デリー校 ●
インド工科大学マドラス校 ●
ケララ大学 ●
マンガラン工科大学 ●
- 【インドネシア】**
スラバヤ工科大学 ●
- 【ウズベキスタン】**
タシケント国立東洋学大学 ●
- 【オーストラリア】**
サンシャインコースト大学 ●
シーキュー大学 ●◆
- 【オランダ】**
アムステルダム応用科学大学 ●
ロッテルダム大学 ●
- 【カナダ】**
クワンテンポリテクニク大学 ●
エドモントン・コンコルディア大学 ●
サスカチュワン大学 ●
トンプソンリバーズ大学 ●◆
マニトバ大学 ●◆
- 【韓国】**
仁荷大学 ●
金剛大学 ●
建国大学 ●
成均館大学 ●
大邱大学 ●
東国大学 ●
韓国外国語大学 ●
韓南大学 ●
円光大学 ●
平澤市 ●
- 【カンボジア】**
王立プノンベン大学 ●
- 【スイス】**
ルツェルン大学 ●
- 【スロベニア】**
リュブリャナ大学 ●
- 【タイ】**
アジア工科大学院 ●
チェンマイ大学 ●
- 【台湾】**
中国文化大学 ●
天主教輔仁大学 ●
龍華科技大学 ●
UMAP加盟校(アジア太平洋大学交流機構) ●
- 【中国】**
華中科技大学 ●
吉林大学 ●
上海対外経済大学 ●
大連外国語大学 ●
大連理工学大学 ●
中国人民大学 ●
復旦大学 ●
- 【フランス】**
ストラスブール大学 ●
ナンテ大学 ●
ピエール・マリイ・キュリエ大学(1916年6月) ●
IAU(国際大学協会)
- 【ベトナム】**
ベトナム国家大学ホーチミン校 ●
- 【マレーシア】**
マラヤ大学 ●
マレーシア国際イスラム大学 ●
- 【ルーマニア】**
ティミショアラ工科大学 ●
- 【ハンガリー】**
ハンガリー科学アカデミー原子核研究所 ●
- 【フィリピン】**
カラガ州立大学 ●
サンホセリコルトス大学 ●
セント・ジョセフ工科大学 ●
ファーザー・サトゥルニノ・ユリオス大学 ●
フィリピン大学ディリマン校 ●
フィリピン大学セブ校 ●
ブトゥアン市 ●

ISEP加盟校(約300校) ●
UMAP加盟校(学生交換締結校) ●
●…交換留学対象校
★…協定校語学留学対象校
◆…2014年度語学セミナー実施校

ISEP (International Student Exchange Programs)
ISEP("アイセップ"と発音)とは、世界各国の加盟校間で学生交換留学を推進する非営利法人的な世界的なコンソーシアム(大学連合組織)です。ISEPに加盟することで、大学間の協定を締結していなくても、ISEP加盟校間での学生交換が可能になります。東洋大学では、アメリカをはじめ、ISEPに加盟する世界各国約300校への留学が可能です。ISEPの加盟校は、ISEPのWebサイト(<http://www.isep.org/>)より確認できます。

UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific:アジア太平洋大学交流機構)
アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進を目的として1993年に設立された団体で、同地域の単位互換による学生交流を進めています。UMAP加盟校(約500校)は、UMAPのWebサイト(<http://www.umap.org/en/home/index.php>)より確認できます。

出身国別留学者数(2014年5月1日現在)

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

学部	中国	韓国	台湾	タイ	マレーシア	インドネシア	イラン	ベトナム	ネパール	インド	モンゴル	ウズベキスタン	フランス	イギリス	合計
文学部	25	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	30
経済学部	44	4	0	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	53
経営学部	29	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	33
法学部	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
社会学部	18	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
理工学部	11	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
国際地域学部	36	5	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	46
総合情報学部	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
学部合計	176	13	3	8	2	1	1	3	0	2	1	2	0	0	212
大学院 博士前期課程・修士課程	84	2	3	3	2	0	0	7	1	1	4	0	0	0	107
大学院 博士後期課程	15	7	0	1	0	0	1	1	2	6	0	0	0	1	34
大学院 合計	99	9	3	4	2	0	1	8	3	7	4	0	0	1	141
総合計	275	22	6	12	4	1	2	11	3	7	6	1	2	1	353



学費データ

2015年度入学者納付金一覧（年額）

東洋大学（学部）

学費	学部								第2部 (イブニングコース)
	文学部 初等教育専攻	文学部 教育学科 初等教育専攻	理工学部	総合情報学部	生命科・ 環境科学学部	ライフデザイン学部 生活支援学科 健康スポーツ学科	ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	文(初等教育専攻を除く)・ 経済・経営・法・社会・ 国際地域学部	
入学金(初年度のみ)	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	180,000
授業料	680,000	790,000	960,000	900,000	970,000	800,000	850,000	430,000	430,000
一般施設設備資金	220,000	250,000	260,000	260,000	260,000	200,000	260,000	100,000	100,000
実験実習料	—	—	85,000	40,000	70,000	—	70,000	—	—
雨水会費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	—	—
学生課外活動育成会費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
合計	1,160,000	1,300,000	1,565,000	1,460,000	1,560,000	1,260,000	1,440,000	715,000	715,000
分割納入の場合[1回目] (入学時)	710,000	780,000	912,500	860,000	910,000	760,000	850,000	450,000	450,000
分割納入の場合[2回目] (2015年10月上旬)	450,000	520,000	652,500	600,000	650,000	500,000	590,000	265,000	265,000
2年次以降の学費(参考)	910,000	1,050,000	1,315,000	1,210,000	1,310,000	1,010,000	1,190,000	535,000	535,000

※社会学部第1部の学費は、教育充実料(社会福祉学科25,000円、メディアコミュニケーション学科10,000円、社会心理学科15,000円)を加えた金額となります。
 ※入学後の履修科目・所属コースによっては、各種実習料が必要となります。 ※納付金は、入学時納付金一括納入が原則です。ただし、授業料・一般施設設備資金・実験実習料・教育充実料は、年2回の分割納入ができます。

東洋大学（大学院・専門職大学院）

学費	文学/経済学 ^{※1} /経営学 ^{※2} /法学/社会学/国際地域学/福祉社会デザイン研究科		公民連携専攻 (経済学研究科)	ビジネス会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コース (経営学研究科)	理工学/生命科学/学際・融合科学研究科		専門職大学院 法務研究科 (法科大学院)
	前期課程	後期課程	270,000	270,000	前期課程	後期課程	250,000
	前期課程				後期課程		
入学金(初年度のみ)	270,000	270,000	270,000	270,000	270,000	270,000	250,000
授業料	450,000	450,000	600,000	900,000	550,000	550,000	940,000
一般施設設備資金	90,000	70,000	300,000	90,000	130,000	80,000	110,000
実験実習料	—	—	—	160,000	120,000	120,000	—
合計	810,000	790,000	1,170,000	1,420,000	1,070,000	1,020,000	1,300,000
分割納入の場合[1回目] (入学時)	540,000	530,000	720,000	845,000	670,000	645,000	775,000
分割納入の場合[2回目] (2015年10月上旬)	270,000	260,000	450,000	575,000	400,000	375,000	525,000
2年次以降の学費(参考)	540,000	520,000	900,000	1,150,000	800,000	750,000	1,050,000

※1 公民連携専攻を除く ※2 ビジネス・会計・ファイナンス専攻中小企業診断士登録養成コースを除く
 ※本学の学部(通信教育課程・短期大学を除く)から大学院へ進学する場合、入学金は免除となります。 ※本学の大学院博士前期課程から博士後期課程へ進学する場合、入学金は免除となります。

東洋大学（通信教育課程）

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	20,000
	授業料	100,000
	合計	120,000

※選考料が別途必要となります。

京北幼稚園

学費	項目	納入金
学費	入園料(初年度のみ)	100,000
	施設設備費(初年度のみ)	10,000
	保育料	288,000
	教育充実費	48,000
	合計	446,000

※この他に園服・通園カバン・学用品費等が別途必要となります。

附属姫路高等学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	200,000
	施設助成金	200,000
	授業料	360,000
	施設設備費	72,000
	委託会費	56,456
	修学旅行積立金	132,000
合計	1,020,456	

※就学支援金基礎額の給付もごぞいます。詳しくはホームページをご覧ください。※学年末の事務処理上、1～2年次の2・3月分納入金は2月に2カ月分を、3年次の1・2・3月分納入金は、1月に3カ月分を納入していただきます。※修学旅行費の積立は第1学年で終わります。第2学年以降は月額28,500円(支援金給付ありの場合・予定)となります。なお、旅程等により、若干額立額が変更となる場合があります。※別途、入学前に制服・体操服・靴などの学用品が必要となります。

附属姫路中学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	200,000
	施設助成金	200,000
	授業料	360,000
	施設設備費	72,000
	委託会費	55,352
	修学旅行積立金	60,000
合計	947,352	

※修学旅行費の積み立ては、1・2年次で行います。行程により積立額が変更となる場合があります。※別途、入学前に制服・体操服・靴などの学用品が必要となります。

東洋大学京北高等学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	250,000
	授業料	456,000
	施設金	120,000
	教育充実費	144,000
	生徒会入会金	4,000
	生徒会会費	15,600
	保護者の会費	8,400
諸経費*(2期分納:4-6月)	約70,000	
合計	1,068,000	

※上記の他に海外修学旅行積立金があります。※事情により変更が生じる場合があります。*諸経費内訳:副教材、実力テスト、健康診断、English Camp(英語漬け合宿)の費用など。

東洋大学京北中学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	250,000
	授業料	456,000
	施設金	120,000
	教育充実費	144,000
	生徒会入会金	4,000
	生徒会会費	15,600
	保護者の会費	8,400
諸経費*(3期分納:4-6-7月)	約150,000	
合計	1,148,000	

※上記の他に海外修学旅行積立金があります。※事情により変更が生じる場合があります。*諸経費内訳:副教材、実力テスト、健康診断、English Camp(英語漬け合宿)の費用など。

附属牛久高等学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	210,000
	入学施設費	190,000
	授業料	324,000
	維持費	168,000
	合計	1,043,800

※学費等は在学中に改定される場合があります。※修学旅行積立金は1・2学年のみ。※3学年は卒業準備金として月額4,000円(平成26年度実績)を納入いただきます。※卒業時に卒業準備金から同窓会入会金を徴収します。

附属牛久中学校

学費	項目	納入金
学費	入学金(初年度のみ)	210,000
	入学施設費	190,000
	授業料	324,000
	維持費	168,000
	生徒会費	7,200
	生徒会入会金(1年4月のみ)	200
	PTA会費	7,200
	PTA入会金(1年4月のみ)	200
	後援会費	30,000
	後援会入会金(1年4月のみ)	10,000
修学旅行積立金	96,000	
PTA支部会費(毎年6月のみ)	1,000	
合計	1,201,800	

※学費等は在学中に改定される場合があります。※宿泊行事積立金は、1年次のホームルーム合格、2年次の国内修学研修、3年次の海外修学研修のための費用を毎月積み立てます。※諸経費は、副教材費、外部テスト代、長期休暇課題費用、共済掛金、その他行事費用等を年2回(4月・10月)に分けて徴収します。

奨学金・表彰制度データ

学部生対象の奨学金

奨学金名称	対象	内容	2014年度受給者数
東洋大学第1種奨学金 (学業成績優秀者奨学金)	学部2～4年生で、学業成績・人物ともに優秀である者 ※学業成績基準あり	300,000円給付	172名
東洋大学第2種奨学金 (経済的修学困難者奨学金)	学部1～4年生で、学業成績・人物ともに優良で、経済的困窮度が高く修学困難な者 ※学業成績基準、家計基準あり	授業料半額給付	457名
東洋大学第3種奨学金 (家計急変者奨学金)	学部1～4年生で、勉強意欲・人物ともに優良でありながら、入学後に家計支持者死亡により修学困難で出願資格・基準等を満たす者	授業料半額給付	24名
東洋大学独立生活支援奨学金	東洋大学「独立生活」支援推薦入試に合格し、白山キャンパスの大学事務局等で就労する者	授業料および一般施設設備資金の半額相当額 (4年間。毎年度継続審査あり)	7名
雨水会奨学金	「雨水会費を納入し会員」となっているご父母・保護者が不慮の事故により、死亡、重病、罹災、突然失業したために、その学生の修学が困難に陥った場合、所属支部長の推薦があり、また学生本人の出願が選考条件に合致すれば、月額3万円の奨学金を学生に給付するという制度で、支給する件数は予算の範囲内です。	月額3万円の奨学金を学生に給付	9名

大学院生対象の奨学金

奨学金名称	対象	内容	2014年度受給者数
第1種奨学金	全学年 (修士・博士前期課程の原級者は除く)	年額300,000円を給付	79名
第2種奨学金	全学年	当該年度に納入すべき授業料の半額に相当する額を給付	3名

留学生対象の奨学金

奨学金名称	対象	内容	2014年度受給者数
塩川正十郎奨学金	学業成績・人物ともに優秀、健康な者で、卒業後、その母国の発展に寄与する意志を有する私費外国人留学生の中から選考します。	月額100,000円 (年額1,200,000円)給付。 他奨学金との併用不可	8名
東洋大学私費外国人留学生授業料減免	東洋大学および同大学院に在学する私費による外国人留学生の教育推進と経済的負担を軽減することを目的とする制度です。	授業料の30%相当額を減免	260名
雨水会奨学金	学業成績・人物ともに優秀かつ健康な者の中から選考	月額30,000円 (年額360,000円)給付	2名

海外留学促進奨学金

タイプ	出願資格	奨学金の給付額(スコア基準)	2014年度受給者数
ファーストステップ型	出願時において本学の学部、大学院に在学する学生で、過去1年以内に下記の語学試験のいずれかを受験し基準スコアを取得していること。 ① TOEIC® IP/TOEIC® 400点以上 ② TOEFL ITP® 435点以上	欧米・オセアニア地域 70,000円 アジア・その他の地域 40,000円	183名
チャレンジ型	出願時において本学の学部、大学院に在学する学生で、過去1年以内に下記の語学試験のいずれかを受験し基準スコアを取得していること。 ① TOEIC® IP/TOEIC® 500点以上 ② TOEFL ITP® 470点以上 ③ TOEFL iBT® 52点以上 ④ IELTS™ 4.5点以上	① 800点～② 580点～③ 92点～④ 6.5点～ 300,000円 ① 730点～② 550点～③ 80点～④ 6.0点～ 250,000円 ① 660点～② 525点～③ 68点～④ 5.5点～ 200,000円 ① 600点～② 500点～③ 61点～④ 5.0点～ 150,000円 ① 550点～② 490点～③ 55点～④ 4.5点～ 100,000円 ① 500点～② 470点～③ 52点～ 80,000円	99名
アクティブ型	出願時において本学の学部、大学院に在学する学生で、過去1年以内に下記の語学試験のいずれかを受験し基準スコアを取得していること。 ① TOEIC® IP/TOEIC® 500点以上 ② TOEFL ITP® 470点以上 ③ TOEFL iBT® 52点以上 ④ IELTS™ 4.5点以上	① 800点～② 580点～③ 92点～④ 6.5点～ 500,000円 ① 730点～② 550点～③ 80点～④ 6.0点～ 450,000円 ① 660点～② 525点～③ 68点～④ 5.5点～ 400,000円 ① 600点～② 500点～③ 61点～④ 5.0点～ 350,000円 ① 550点～② 490点～③ 55点～④ 4.5点～ 300,000円 ① 500点～② 470点～③ 52点～ 250,000円	33名
グローバルリーダー型	留学開始時において本学の学部2年生以上でトップクラスの学修成果を収め、卓越した語学力を有する学生。交換留学出願時において、過去1年以内に下記の語学試験のいずれかを受験し基準スコアを取得していること。また、留学する年の前学年までのGPA(あるいはGPA換算値)が3.2以上であること。 ① TOEIC® IP/TOEIC® 800点以上 ② TOEFL ITP® 580点以上 ③ TOEFL iBT® 92点以上 ④ IELTS™ 6.5点以上	1,500,000円	6名



2015年度 入試データ

□ 一般入試 (第1部)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	743	314
	東洋思想文化学科	1,230	418
	日本文学文化学科	3,111	817
	英米文学科	2,017	625
	英語コミュニケーション学科	2,830	578
	史学科	2,150	551
	教育学科(人間発達)	878	322
	教育学科(初等教育)	1,277	219
文学部 合計		14,236	3,844
経済学部	経済学科	5,972	1,122
	国際経済学科	3,785	899
	総合政策学科	2,776	626
経済学部 合計		12,533	2,647
経営学部	経営学科	4,770	1,243
	マーケティング学科	2,386	471
	会計ファイナンス学科	1,383	456
経営学部 合計		8,539	2,170
法学部	法律学科	4,635	1,206
	企業法学科	3,802	926
法学部 合計		8,437	2,132
社会学部	社会学科	2,657	813
	社会文化システム学科	1,197	483
	社会福祉学科	1,033	396
	メディアコミュニケーション学科	2,225	571
	社会心理学科	2,107	454
社会学部 合計		9,219	2,717
国際地域学部	国際地域学科(国際地域)	2,913	891
	国際観光学科	3,814	763
国際地域学部 合計		6,727	1,654
ライフデザイン学部	生活支援学科(生活支援学)	1,039	390
	生活支援学科(子ども支援学)	1,032	252
	健康スポーツ学科	2,065	516
	人間環境デザイン学科	1,020	346
ライフデザイン学部 合計		5,156	1,504
生命科学部	生命科学科	1,650	667
	応用生物科学科	1,393	568
生命科学部 合計		3,043	1,235
食環境科学部	食環境科学科(フードサイエンス)	775	334
	食環境科学科(スポーツ・食品機能)	415	198
	健康栄養学科	673	247
食環境科学部 合計		1,863	779
理工学部	機械工学科	2,420	856
	生体医工学科	818	432
	電気電子情報工学科	1,632	623
	応用化学科	1,369	608
	都市環境デザイン学科	1,270	485
	建築学科	1,857	535
理工学部 合計		9,366	3,539
総合情報学部	総合情報学科	2,124	823
総合情報学部 合計		2,124	823
第1部 合計		81,243	23,044

□ 一般入試 (第2部・イブニングコース)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	東洋思想文化学科	126	87
	日本文学文化学科	217	144
	教育学科	179	108
第2部 文学部 合計		522	339
経済学部	経済学科	369	221
	第2部 経済学部 合計	369	221
経営学部	経営学科	285	140
第2部 経営学部 合計		285	140
法学部	法律学科	347	178
	第2部 法学部 合計	347	178
社会学部	社会学科	270	186
	社会福祉学科	194	152
第2部 社会学部 合計		464	338
国際地域学部	国際地域学科(地域総合)	316	173
国際地域学部(イブニングコース) 合計		316	173
第2部・イブニングコース 合計		2,303	1,389

□ 推薦入試 (学校推薦)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	7	6
	東洋思想文化学科	3	3
	教育学科(人間発達)	19	16
	教育学科(初等教育)	19	6
	国際経済学科	10	6
法学部	法律学科	37	25
	企業法学科	42	24
社会学部	社会福祉学科	16	12
	生活支援学科(生活支援学)	13	9
ライフデザイン学部	人間環境デザイン学科	7	7
	生命科学科	0	0
生命科学部	応用生物科学科	2	2
	機械工学科	3	3
理工学部	生体医工学科	1	1
	応用化学科	11	9
総合情報学部	都市環境デザイン学科	5	4
	総合情報学科	20	19
第1部 合計		215	152
文学部	東洋思想文化学科	2	2
	日本文学文化学科	13	13
	教育学科	5	5
	経済学科	16	16
経営学部	経営学科	31	30
社会学部	社会学科	21	19
	社会福祉学科	7	7
国際地域学部	国際地域学科(地域総合)	13	12
第2部・イブニングコース 合計		108	104
学校推薦 合計		323	256

□ 推薦入試 (「独立自活」支援推薦)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	東洋思想文化学科	0	0
	日本文学文化学科	2	1
	教育学科	2	1
経済学部	経済学科	2	1
経営学部	経営学科	4	1
法学部	法律学科	3	1
社会学部	社会学科	8	1
	社会福祉学科	2	1
国際地域学部	国際地域学科(地域総合)	4	1
「独立自活」支援推薦 合計		27	8

□ 推薦入試 (自己推薦)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	28	12
	東洋思想文化学科	13	12
社会学部	社会学科	19	15
	社会福祉学科	39	19
国際地域学部	国際地域学科(国際地域)※1	15	13
	生活支援学科(生活支援学)	24	10
ライフデザイン学部	生活支援学科(子ども支援学)	46	5
	健康スポーツ学科	62	13
	人間環境デザイン学科	34	23
生命科学部	生命科学科	10	9
	応用生物科学科	7	7
食環境科学部	食環境科学科(フードサイエンス)	13	6
	食環境科学科(スポーツ・食品機能)	15	5
	健康栄養学科	27	5
総合情報学部	総合情報学科	2	2
第1部 合計		382	169
文学部	東洋思想文化学科	1	1
	日本文学文化学科	9	9
法学部	法律学科	55	48
社会学部	社会学科	7	5
	社会福祉学科	4	4
国際地域学部	国際地域学科(地域総合)	5	4
第2部 合計		81	71
自己推薦 合計		463	240

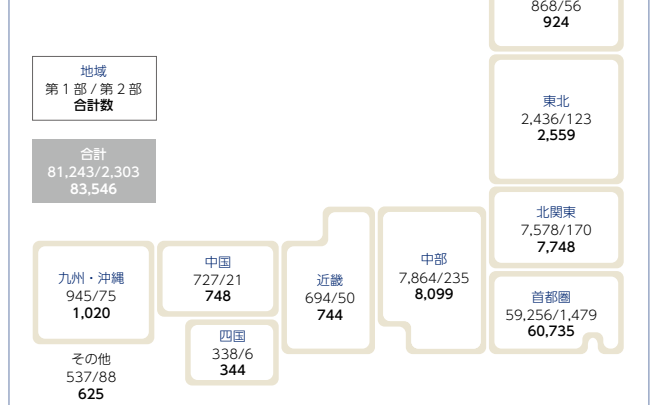
※1 留学挑戦型

□ 推薦入試 (AO型推薦)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
経済学部	総合政策学科	40	16
	国際地域学科(国際地域)※2	11	7
国際地域学部	国際地域学科(国際地域)※3	8	4
	国際観光学科	102	29
理工学部	都市環境デザイン学科	8	5
	建築学科	9	5
経済学部	経済学科	14	10
国際地域学部	国際地域学科(地域総合)※4	4	4
AO型推薦 合計		196	80

※2 留学支援型 ※3 地域づくりエキスパート型 ※4 留学挑戦型

□ エリア別志願者数 (第1部・第2部 一般入試)



□ 現浪別志願者数 (第1部・第2部 一般入試)

	第1部	第2部	合計
現浪	68,415	1,535	69,950
既卒	12,291	680	12,971
合計	80,706	2,215	82,921

□ 男女別志願者数 (第1部・第2部 一般入試)

	第1部	第2部	合計
男子	48,303	1,696	49,999
女子	32,940	607	33,547
合計	81,243	2,303	83,546

□ 附属学校等

学校名	志願者数	受験者数	合格者数
附属短路中学校	164	147	91
附属短路高等学校	3,236	3,223	3,214
附属牛久中学校	129	126	107
附属牛久高等学校	1,971	1,963	1,747
東洋大学京北中学校	1,216	700	170
東洋大学京北高等学校	932	860	569
京北幼稚園	63	62	38

□ 専門職大学院

研究科	志願者数	受験者数	合格者数
法務研究科(法科大学院)	12	12	10

□ 大学院 博士前期課程

研究科	志願者数		受験者数		合格者数	
	秋入学	4月	秋入学	4月	秋入学	4月
文学研究科		15		15		14
社会学研究科		5		5		5
法学研究科		0		0		0
経営学研究科	0	3	0	3	0	3
経済学研究科		0		0		0
国際地域学研究科	4	6	4	5	3	5
生命科学研究科	0	3	0	3	0	3
福祉社会デザイン研究科		11		11		10
学際・融合科学研究科	0	1	0	1	0	1
理工学研究科	0	2	0	2	0	2
合計	4	46	4	45	3	43

□ 大学院 博士前期・修士課程

研究科	志願者数		受験者数		合格者数	
	秋入学	4月	秋入学	4月	秋入学	4月
文学研究科		42		42		35
社会学研究科		22		20		14
法学研究科		31		28		20
経営学研究科	0	89	0	85	0	41
経済学研究科	4	33	4	32	4	31
国際地域学研究科	8	38	8	36	5	26
生命科学研究科	1	45	1	44	1	35
福祉社会デザイン研究科	1	36	1	36	0	31
学際・融合科学研究科	0	9	0	9	0	9
理工学研究科	2	74	2	74	2	71
合計	16	419	16	406	12	313

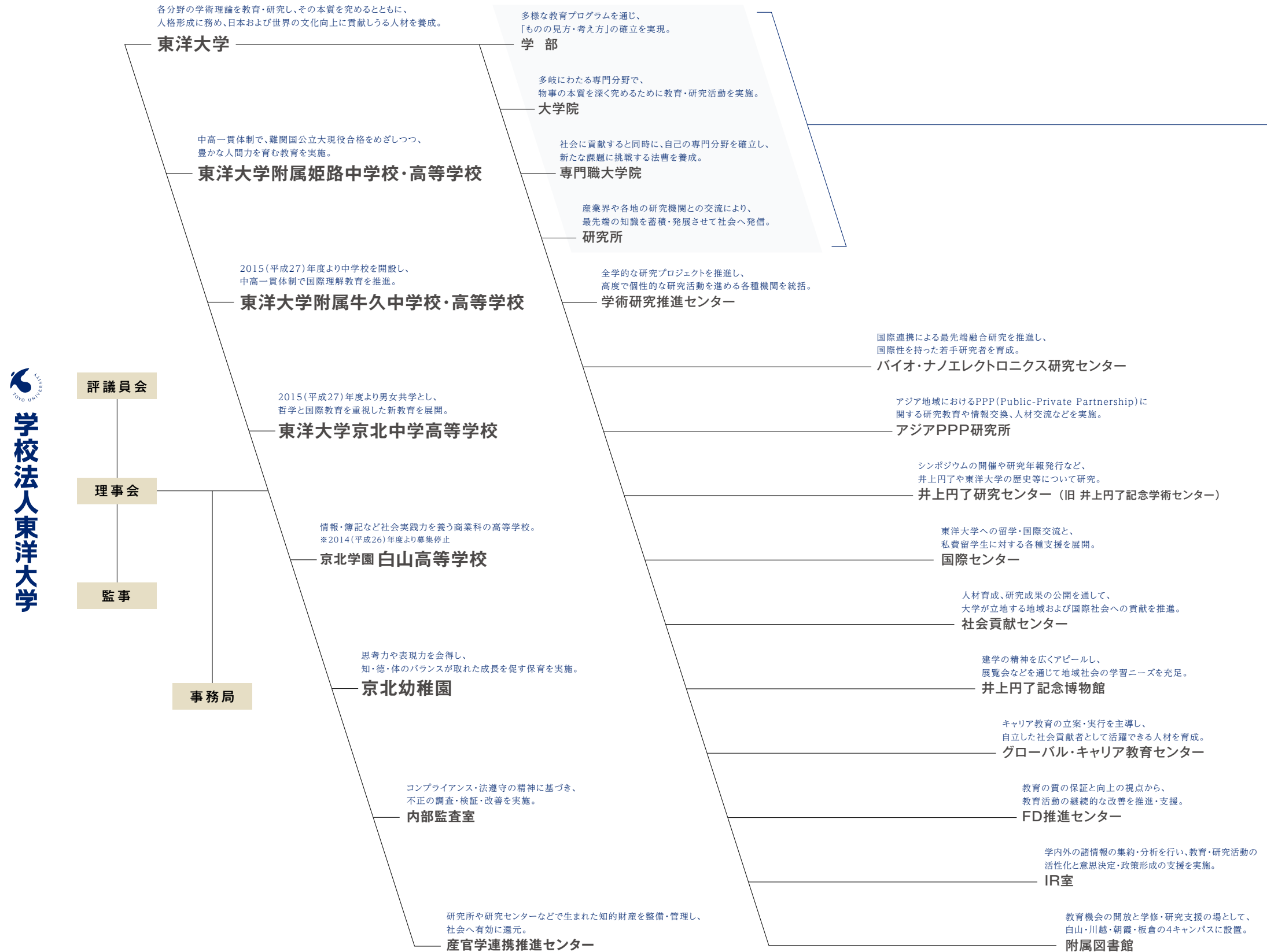


組織図

(2015年4月1日現在)

社会と向き合い、進化する学校法人東洋大学

1887(明治20)年に始まった小さな「私立哲学館」。今では学校法人東洋大学として、多領域に広がる活動をしています。



学部

文学部 哲学科 / 東洋思想文化学科★ / 日本文学文化学科★※ / 英米文学科 / 英語コミュニケーション学科 / 史学科 / 教育学科★ 経済学部 経済学科★ / 国際経済学科 / 総合政策学科 経営学部 経営学科★ / マーケティング学科 / 会計ファイナンス学科 法学部 法律学科★※ / 企業法学科 社会学部 社会学科★ / 社会文化システム学科 / 社会福祉学科★ / メディアコミュニケーション学科 / 社会心理学科	国際地域学部 国際地域学科★ / 国際観光学科 ライフデザイン学部 生活支援学科 / 健康スポーツ学科 / 人間環境デザイン学科 生命科学部 生命科学科 / 応用生物科学科 食環境科学部 食環境科学科 / 健康栄養学科 理工学部 機械工学科 / 生体医工学科 / 電気電子情報工学科 / 応用化学科 / 都市環境デザイン学科 / 建築学科 総合情報学部 総合情報学科
---	--

大学院

文学研究科 哲学専攻 / インド哲学仏教学専攻 / 日本文学文化専攻 / 中国哲学専攻 / 英文学専攻 / 史学専攻 / 教育学専攻 / 英語コミュニケーション専攻 社会学研究科 社会学専攻 / 社会心理学専攻 法学研究科 私法学専攻 / 公法学専攻 経営学研究科 経営学専攻 / ビジネス・会計ファイナンス専攻★ / マーケティング専攻 理工学研究科 生体医工学専攻 / 応用化学専攻 / 機能システム専攻 / 電気電子情報専攻 / 都市環境デザイン専攻■ / 建築学専攻■ / 建築・都市デザイン専攻■	経済学研究科 経済学専攻 / 公民連携専攻★■ 国際地域学研究科 国際地域学専攻 / 国際観光学専攻 生命科学研究科 生命科学専攻 福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻 / 福祉社会システム専攻★■ / ヒューマンデザイン専攻 / 人間環境デザイン専攻 学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻
---	--

専門職大学院

法務研究科 法務専攻■

研究所 人間科学総合研究所 / 現代社会総合研究所 / 東洋学研究所 / アジア文化研究所 / 地域活性化研究所 / 工業技術研究所 / ライフイノベーション研究所

大学院・学部併設センター 「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ / 国際哲学研究センター / 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター / 経営力創成研究センター / 計算力学研究センター / PPP研究センター / 生命環境科学センター / 福祉社会開発研究センター / 産学協同教育センター

■ …修士・博士前期課程のみ設置 ■ …博士後期課程のみ設置 ■ …専門職学位課程他、博士前期・博士後期課程

★印は学部の場合はイブニングコース(第2部)を設置していること、大学院の場合は主として夜間に授業を行う課程を示す ※印は通信教育課程を設置していることを示す

キャンパス・施設

首都圏に広がる最新設備を擁するキャンパス



白山キャンパス

創立以来の伝統と知の資産が結集する都心の近代的なキャンパス

文学部／経済学部／経営学部／法学部／社会学部／国際地域学部／文系各大学院／専門職大学院(法科大学院)

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL. 03-3945-7224



川越キャンパス

東京ドーム6個分の敷地を誇る先端技術の拠点となるキャンパス

理工学部／総合情報学部／理工学研究科／学際・融合科学研究科

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
TEL. 049-239-1300



大手町サテライト

PPPを学ぶ社会人大学院であり国際的なPPP研究の拠点

経済学研究科公民連携専攻

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル1F
TEL. 03-3231-1021



朝霞キャンパス

人びとの生活に根ざした実用・実学の実践的な教育を展開するキャンパス

ライフデザイン学部／福祉社会デザイン研究科

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
TEL. 048-468-6311



板倉キャンパス

地域に根ざした活動も盛んなバイオテクノロジーの拠点

生命科学部／食環境科学部／生命科学研究科

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1
TEL. 0276-82-9111



総合スポーツセンター

さまざまなスポーツ施設を備えたアスリートのための総合センター

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1
TEL. 03-6454-3340

附属学校等



東洋大学附属牛久中学校・高等学校

コース別教育課程を編成し語学教育と国際理解教育を推進

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2
TEL. 029-872-0350



京北学園白山高等学校

情報・簿記など社会実践力を養う商業科の高等学校

〒112-8607 東京都文京区白山2-36-5
TEL. 03-3816-6211



東洋大学附属姫路中学校・高等学校

創立50年を超える兵庫県姫路市唯一の男女共学の私立中学校・高等学校

〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699
TEL. 079-266-2626



東洋大学京北中学高等学校

歴史と伝統を誇りに改革を進める新生生京北へ

〒112-8607 東京都文京区白山2-36-5
TEL. 03-3816-6211



京北幼稚園

知・徳・体のバランスのとれた成長を軸に人間形成の基礎作りを担う幼稚園

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5
TEL. 03-3941-7090

Significant Supporters

学校法人東洋大学の「知」に相乗効果をもたらす多彩な有識者が教育をバックアップしています

未来を拓くトップセミナー (2014年度 講演者)

社会のリーダーの経験と知見を学び、学生が自身を見出す契機とするとともに、キャリア形成に役立てることを目的とした特別講演会の講師陣です。



2014年6月19日 | 科学技術におけるニューフロンティア～精神の計測と解析～
株式会社日立製作所 役員待遇フェロー
公益財団法人日本工学アカデミー 副会長
小泉 英明氏



2014年6月25日 | 保育の岩盤規制と闘う
株式会社ポピンズ 代表取締役
元テレビ朝日アナウンサー
中村 紀子氏



2014年6月27日 | 社員食堂を作った体脂肪計タニタの経営
株式会社タニタ 前代表取締役社長
経営コンサルタント
谷田 大輔氏



2014年7月8日 | 働く上で大切なこと～東京ディズニーリゾートでの経験を通して～
株式会社オリエンタルランド 代表取締役会長(兼)CEO
加賀見 俊夫氏



2014年10月8日 | 誇りの持てる企業文化を
株式会社ミキハウス 代表取締役社長
木村 皓一氏



2014年10月22日 | 健康とスポーツ
スポーツプロデューサー/
元全日本バレーボール選手
三屋 裕子氏



2014年11月14日 | 人間が生き物であることを基本に置く社会
JT生命誌科学館 館長
中村 桂子氏



2014年11月19日 | 平等にもらった1日24時間365日
本学理事／株式会社セブン銀行 代表取締役会長
安斎 隆氏



2014年12月3日 | 世界にはばたく若者の育成に向けて～国際ナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢の挑戦～
国際ナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢 代表理事
小林 りん氏

東洋大学 井上円了哲学塾 (2014年度 講師)

現代社会の課題と哲学を結びつけて捉え、多様なテーマで展開される「リーダー哲学講義」で講演いただいた講師陣です。



2014年11月8日 | イスラムとの対話と共存
東京国際大学特命教授
国際交流研究所長
塩尻 和子氏



2014年11月15日 | 国際社会における日本のプレゼンス
公益財団法人フォーリン・プレスセンター 理事長
赤阪 清隆氏



2014年11月22日 | 海外での医療にたずさわって学んだこと
聖路加国際病院附属クリニック
予防医療センター婦人科副院長
貫戸 朋子氏



2014年11月29日 | 近代日本と漱石の文学
聖学院大学学長
姜 尚中氏



2014年12月6日 | 文明と文化の間を哲学する
前東洋英和女学院大学学長
東京大学名誉教授、国際基督教大学名誉教授
村上 陽一郎氏



2014年12月13日 | 哲学とこれからの市民文化
哲学者／大谷大学教授
せんだいメディアテーク館長、前大阪大学総長
鷲田 清一氏



2014年12月20日 | 生きる手ごたえを、人はどう掴み取ってきたか～日本文学の「今」をさかのぼって「これから」を考えるために～
日本文学研究者、東京大学大学院教授
ロバート キャンベル氏



2015年1月10日 | 日本文化の特質とその可能性
鎌倉女子大学教授、東京大学名誉教授
日本倫理学会会長
竹内 整一氏



2015年1月17日 | -対談- 日本力の再生と対外発信
政策研究大学院大学教授
元経済財政政策担当大臣
大田 弘子氏
× 学校法人東洋大学 理事長
福川 伸次

未来宣言 Declaration for the Future

東洋大学は、125年の歳月をかけ、創立時の哲学館から今日この日を迎えた東洋大学へと大きく変わることができました。中世ヨーロッパに成立した大学に比べれば、その歴史はあまりにも短く、まだまだ若いと言えます。しかし、本学にとってこの125年は激動の歳月であり、本学を支えてくださった多くの賢人の御尽力により、数々の試練を克服することができました。

創立者、井上円了先生が生涯の使命として実践してきたこと、それはあくまでも在野にあって、哲学教育を通じ、社会の改革に奉仕する優れた人材を育成することでした。円了先生は、物事についてあらゆる角度から思考を深め、真理を探究しぬき、そこで得られた考えを実行に移すこと、すなわち「哲学すること」を重視したのです。

また、知性(学力)と徳性(人間力)とを十全に備えた、自主的・主体的に物事に取り組む人間の育成に全力を注ぎました。なお、明治の時代にあって、円了先生は3度にわたり世界を巡り、東洋と西洋の文化・人間そのものに直接触れ、その体験から日本の伝統を尊重し、かつそれを普遍的な真理に照らして吟味することを訴えました。

東洋大学がこの125年間にわたり、変わらずに次世代へと引き継いできたものは何かと言えば、創立者のこの崇高な理想であり、それは東洋大学のDNAと言えるものです。

いま、世界は大きく変化し、グローバル化の波が我が国にも押し寄せてきています。グローバル化とは何か？

それは一言でいえば「世界標準」の仕組みを取り入れ、その中で永続的な成長を遂げることだと思います。この流れは私たちにとって新しい試練になるかもしれません。

しかし、東洋大学は困難を恐れず立ち向かいます。東洋大学の役員・教員・職員は信念と決意をもった素晴らしい人材です。一人ひとりが熱い志を胸に秘め、努力を惜みず、団結して共に働き、新たな課題を乗り越えていきます。なぜならば、「人材の育成」という、円了先生が掲げた崇高な理想を、未来の世代に引き継いでいく責務が私たちにはあるからです。

その実践を通じて、東洋大学は、受験生・保護者・高校の先生方・企業の皆さまから選ばれる大学でありたい、また学生の夢をかなえる大学でありたいと願っています。

私たちは未来に向けてここに宣言します。

東洋大学は、「哲学すること」の教授を根本として、世界標準の教育・研究・社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学の実現を目指し、役員・教員・職員・学生のすべてが一体となって、卒業生ともども奮闘努力してまいります。今日、未来へ旅立つこの日を胸に刻み、創立者・井上円了先生の崇高な理想を次世代へと届けることを喜びに、地球社会の未来に貢献する大学の確立を求めて、私たちの手で新しい歴史を創出し、進化し続けていくことを誓います。

2012年 11月 23日 創立125周年記念式典 於

東洋大学 学長 竹村 牧男



東洋大学ブランドマーク

東洋大学のブランドマークは、人と地球をモチーフに学生がダイナミックにグローバルに世界に向かって羽ばたく姿を象徴しています。また、「哲学」を基盤とし「国際化」「キャリア教育」による「グローバル人材」の育成や、高い志を持って上昇、飛翔していく喜びや未来への期待感が表現されています。